

RICOH



RICOH Remote Communication Gate A2

使用説明書

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

株式会社 リコー

東京都大田区中馬込 1-3-6 〒 143-8555

<https://www.ricoh.co.jp/>

この本の読みかた

正しくお使いいただくために

このたびは本製品をご利用いただき、ありがとうございます。

この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

★重要

誤って操作をすると、データ消失などの原因になることがあります。必ず、お読みください。

↓補足

操作するとき気を付けることや、操作を誤ったときの対処方法などを説明しています。

目参照

参照先を示します。

[]

画面のキーや項目の名称を示します。

本書についてのご注意

本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

画面の表示内容やイラストは機種、オプションによって異なります。

本書は、原則的にオプションを装着した状態の画面と外観イラストを使って説明しています。

本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

略称について

本書では、「RICOH Remote Communication Gate A2」を「RC Gate」と略して記載しています。指定のない場合、管理者とは RC Gate 管理者を指します。

画面について

本書では、Microsoft® Windows® 7 と Internet Explorer 9.0 の画面を用いて説明しています。ほかの OS をご使用の場合、画面が異なりますが、操作は同じです。

使用説明書の紹介

お使いになる目的に応じて、必要な使用説明書をお読みください。

使用説明書（本書）

本機の使用方法に関するすべての項目が記載されています。『安全上のご注意/セットアップガイド』に記載されている手順を行ったあと、本書の手順を行ってください。

安全上のご注意/セットアップガイド

本機の設置・設定方法と注意事項が記載されています。

↓ 補足

- カスタマーエンジニアが本機の設置・登録作業を行った場合は、本書に記載されている登録作業を行う必要はありません。ただし、保守・運用作業を行う場合には本書をよくお読みください。
- PDF 形式の使用説明書を表示するためには、Adobe Acrobat または Adobe Reader が必要です。

おことわり

本製品の故障による損害やデータの消失による損害、その他本製品および使用説明書の使用または使用不能により生じた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。コンピューターウイルス、ワーム、その他の有害なソフトウェア等に対する予防措置は、お客様の責任で講じてください。

目次

はじめに.....	1
この本の読みかた.....	2
正しくお使いいただくために.....	2
マークについて.....	2
本書についてのご注意.....	2
略称について.....	3
画面について.....	3
使用説明書の紹介.....	4
おことわり.....	5
1. RC Gate について	
RC Gate を使ってできること.....	11
システム概要.....	12
IPv4 と IPv6 の混在環境で使用するときの注意事項.....	13
各部の名称とはたらき.....	14
前面.....	14
背面.....	15
オプション名称とはたらき.....	16
RC Gate モニターについて.....	17
RC Gate モニターのユーザー.....	17
RC Gate モニターを起動するには.....	18
RC Gate モニターを終了するには.....	19
2. セットアップする	
導入時の設定をする.....	21
日付・時刻の設定をする.....	21
ネットワークの設定をする.....	21
IEEE 802.1x 認証の設定をする.....	21
プロキシサーバーの設定をする.....	21
RS センターシステムへ接続する.....	22
@Remote タスクの実行の許可設定.....	22
オートディスカバリー.....	22
SNMP.....	23
機器の追加.....	23
システムログ.....	23

導入完了.....	23
3. 機器の設定方法と見かた	
画面の見かた.....	25
パスワードを変更する.....	26
RC Gate シャットダウン.....	27
表示アイコンについて.....	27
一覧をソート、分類する.....	29
システムの設定をインポート/エクスポートする.....	30
CSV ファイルを取り込む.....	30
CSV ファイルに書き出す.....	31
CSV ファイルのフォーマット.....	32
機器一覧の CSV ファイルフォーマット.....	32
ディスカバリー範囲の CSV ファイルフォーマット.....	33
セキュリティーログの CSV ファイルフォーマット.....	35
機器 FW 更新禁止期間シフト設定の CSV フォーマット.....	36
4. 機器一覧	
機器一覧の設定項目一覧.....	37
機器のプロパティを確認する.....	38
機器のプロパティを表示する.....	38
メインプロパティ.....	38
詳細状態.....	40
カウンター.....	43
オプションプロパティ.....	44
@Remote Properties.....	45
アクセスアカウント設定.....	46
機器一覧から手動でポーリングを実行する.....	46
5. ディスカバリー&ポーリング	
ディスカバリー&ポーリングの設定項目一覧.....	47
機器の追加.....	47
登録済み機器再検索.....	50
アクセスアカウント設定.....	52
アクセスアカウントを設定する.....	55
SNMP のアカウントを設定する.....	55

機器管理者のアカウントを設定する.....	55
アクセスアカウントを上書きする.....	56
アクセスアカウントを削除する.....	56
アクセスプロファイルを指定する.....	57
SNMP.....	57
機器管理者.....	57
機器を検索する.....	58
検索する.....	58
機器を再検索する.....	59
RS センターシステムに任意の機器を登録する.....	60
機器をグループで分類する.....	61

6. システム

システムの設定一覧.....	63
セットアップ.....	63
サーバー設定.....	68
セキュリティ.....	73
ログ.....	74
スケジュールタスク.....	77
RC Gate をアクティベーションする.....	79
アクティベーションする.....	79
ディアクティベーションする.....	79

7. @Remote

@Remote の設定項目一覧.....	81
@Remote システムへの接続.....	81
管理機器情報収集/通知設定.....	82
@Remote タスクの実行許可設定.....	84
機器アクセス情報.....	85
シリアル番号の取得.....	86
オートディスカバリー.....	86
集約.....	89
機器 SSL 設定.....	89
機器 FW 更新.....	90
機器 FW 更新禁止期間シフト設定.....	91

コール/カウンターの履歴保存.....	92
ファームウェアを確認する.....	94
機器ファームウェアを更新する.....	94
システムファームウェアを更新する.....	94

8. 付録

こんなときには.....	95
RC Gate の LED 表示について.....	95
トラブルシューティング.....	96
エラーメッセージが表示されたときは.....	96
エラーメッセージに示された障害が継続するとき.....	98
事業所の移転、機器の移動等.....	98
故障・保守サービスに関するお問い合わせ.....	99
本機を返却するとき.....	99
エラーコード.....	99
本体仕様.....	109
電波障害に関する注意事項.....	109
リサイクル部品について.....	110
本機に搭載されているソフトウェアの著作権などに関する情報.....	111
商標.....	116
索引.....	117



1. RC Gate について

ここでは、RC Gate の概要について説明します。

RC Gate を使ってできること

RC Gate を使って、以下の操作ができます。

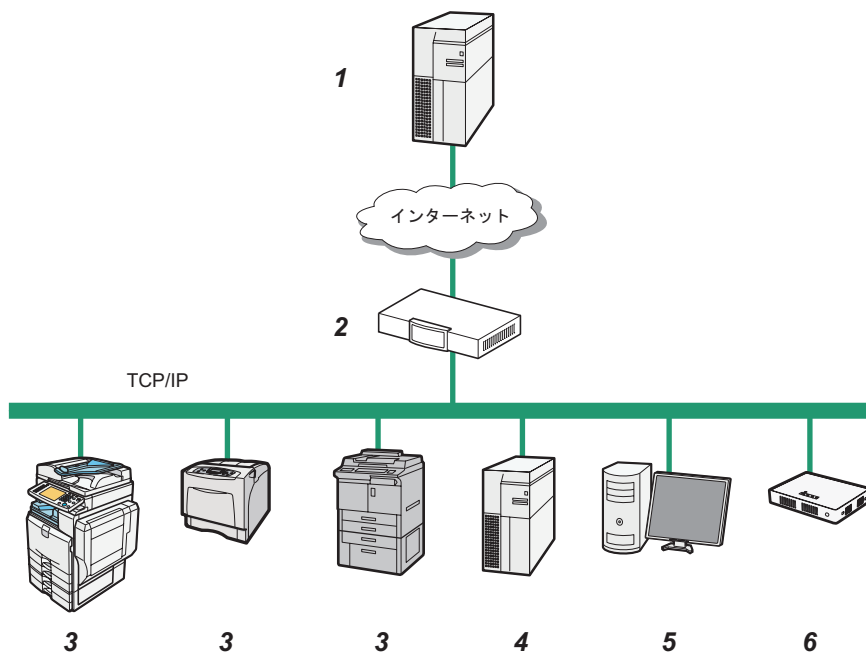
- 機器が故障したときに、RS センターシステムへのサービスコールを自動で発信できます。
- 機器のファームウェアを更新できます。
- 機器のカウンター情報を取得し、RS センターシステムに通知できます。
- トナーなど、機器の消耗品の残量が少なくなったときに、RS センターシステムに通知され自動で発注できます。
- 複数の機器の使用状況を簡単に把握できます。

システム概要

本機は、インターネットを経由して HTTPS 接続で RS センターシステムと通信できます。HTTPS 接続で認証することで、本機と RS センターシステムとの通信の安全性が保障されます。RS センターシステムは HTTPS サーバーとして動作し、本機はクライアントとして機能します。

通信できるのは以下の条件を満たしているときです。

- お使いのネットワーク環境が、外部の Web サイトにアクセスできる。
- プロキシサーバーを経由する必要があるときには、ネットワーク設定画面に必要な設定がされている。



DJH008

1. RS センターシステム

各種サービスのための情報を集約するセンターです。

2. プロキシサーバーおよびファイアウォール

プロキシサーバーやファイアウォールを使用できます。プロキシサーバーは、認証なしで対応しているときでも使用できますが、「ベーシック認証」、「ダイジェスト認証」、「Windows 統合認証」、「Kerberos 認証」で対応している環境でも使用できます。

3. 機器

管理対象となる機器の種類は、デジタル複合機、プリンターです。本機には最大 100 台の機器を登録できます。

- 本機の管理対象となる機器には、HTTPS 対応機と SNMP 対応機の 2 種類があります。使用者は、機器一覧におけるデータ項目の [@Remote Properties] を選択し、「接続タイプ」を確認することでその識別ができます。
- 本機と HTTPS 対応機との通信は、HTTPS 接続で相互認証することで安全性が保証されます。HTTPS 対応機の設定に関する要件は、各機器の管理者設定項目の「@Remote サービス」が「禁止しない」に設定されていることです。
- 本機と SNMP 対応機との通信は、SNMPv1,v2 と SNMPv3 を使用できます。
- 本機と TLS 対応機との通信は、TLS 1.0、1.1 と TLS 1.2 を使用できます。

オプションでストレージを拡張すると、1,000 台まで登録できます。詳細は、サービス実施店にご相談ください。

オプションの詳細は、P.16 「オプション名称とはたらき」を参照してください。

4. メールサーバー (SMTP サーバー)

本機ではメールサーバーを設け、メール通知機能を使用できます。

5. 管理用のパソコン

RC Gate モニターを使って、Web ブラウザー経由で本機を管理します。RC Gate モニターの詳細は、P.17 「RC Gate モニターについて」を参照してください。

6. 本機 (RC Gate)

機器の各種情報を RS センターシステムへ通知したり、RS センターシステムから機器の更新用ソフトウェアをダウンロードしたりと、機器と RS センターシステムの仲介役を果たします。

IPv4 と IPv6 の混在環境で使用する時の注意事項

本機は、IPv4 と IPv6 のデュアルスタックの環境には対応していますが、トランスレーターの環境には対応していません。また、トランスレーターの環境では、お使いの機器 (複合機、プリンター) によっては、本機と通信できません。

機器から本機へ通信できないときは、トランスレーター環境かどうか確認してください。

詳しくはサービス実施店にお問い合わせください。

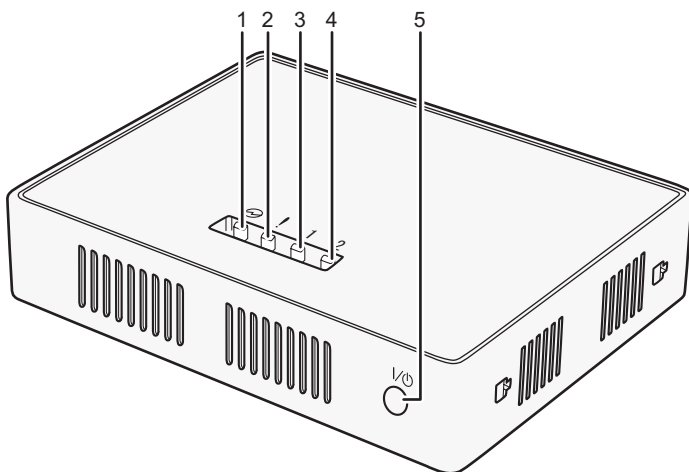
各部の名称とはたらき

各部の名称とはたらきについて説明します。

1

前面

前面の各部の名称とはたらきについて説明します。



DJH100

1. 電源 LED (青)
2. アラート LED (赤)
3. ステータス 1LED (黄)
4. ステータス 2LED (黄)
5. 電源ボタン

本機の電源のオン/ スタンバイを行います。

電源は電源プラグをコンセントに差し込むと電源ボタンを押さなくても入ります。また電源ボタンを 4 秒間以上長押しするとシステムがシャットダウンされてスタンバイの状態になります。

↓ 補足

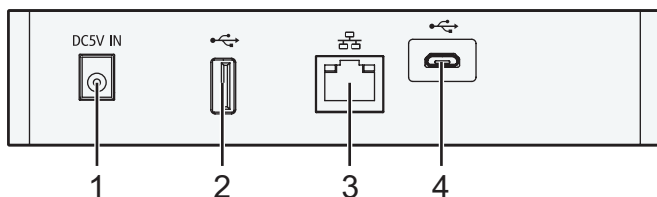
- 電源プラグを抜く前に必ず本機をシャットダウンしてスタンバイの状態にしてください。スタンバイの状態にしないで電源コードを抜くと記憶媒体が破損する場合があります。そのとき、最新ログが失われることがあります。
- LED が点滅・点灯したときは、P.95 「RC Gate の LED 表示について」を参照してください。

背面

背面の各部の名称とはたらきについて説明します。

★重要

- 外装ネジ（2箇所）はカスタマーエンジニア専用のため操作しないでください。



DJG001

1. 電源コネクタ

電源コードを接続するときに使うコネクタです。

2. USB2.0 インターフェース

使用できません。

3. LAN ポート

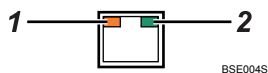
本機を使用するネットワークに接続するためのネットワーク（Ethernet）ポートです。工場出荷時は未設定のため空欄です。導入設定時に IP アドレスを設定してください。設定方法は『セットアップガイド』「5. RC Gate の初期設定を行う」を参照してください。

4. USB2.0 インターフェース（メンテナンスポート）

micro-USB ケーブルを接続するためのポートです。カスタマーエンジニアがメンテナンスするときや、任命された管理者が本機の初期設定、登録するときに使用します。

LAN ポートの LED

通電時、LAN ポートの接続状態が確認できます。



BSE004S

1. LED（接続状態）

本機がネットワークに接続しているときに点灯します（オレンジ色）。

2. LED（送受信状態）

データを送受信しているときに点灯します（緑色）。

オプション名称とはたらき

本機のオプションの名称とはたらきについて説明します。

本機では、ハードウェアオプションとしてストレージの容量を拡張できます。設置については、サービス実施店にご相談ください。

- RICOH Remote Communication Gate A2 Storage 1000

本機に登録できる機器は通常最大で 100 台ですが、オプションでストレージを拡張すると 1,000 台まで登録できます。詳細は、サービス実施店にご相談ください。

RC Gate モニターについて

RC Gate モニターは、本機と機器の登録や設定をしたり、状態を閲覧したりするためのソフトウェアです。RC Gate モニターは本機に内蔵されています。パソコンの Web ブラウザーを使ってアクセスできます。

★重要

- 以下のときは、表示や操作に不具合が生じる可能性があります。
 - 使用する Web ブラウザーのバージョンが推奨ブラウザより低い。
 - 「JavaScript」が有効になっていない。
 - 「Cookie の使用許可」が有効になっていない。
 - キャッシュを表示する設定になっている。
- 使用する Web ブラウザーの文字サイズの設定によっては、ページレイアウトが崩れることがあります。文字サイズは「中」以下に設定することをお勧めします。
- お使いの Web ブラウザーが、表示言語に対応していないときは、文字化けを起こす可能性があります。
- 機器と本機、ブラウザと本機が共通に使用可能なモードで使用できるように設定してください。
- お使いのブラウザの状態によりスクリプトの実行を中止するダイアログが表示されます。表示されたときは必ず「いいえ」を選択してください。

対象 OS

以下の推奨 Web ブラウザーをサポートする OS を使用してください。

推奨 Web ブラウザー

- Microsoft Edge (Chromium)
- Mozilla Firefox

↓補足

- SSL による暗号化通信を行うために、本機に証明書が導入されているかどうか確認してください。

RC Gate モニターのユーザー

本機にログインできるユーザーは、以下のとおりです。

管理者

本機の設定値の変更や、カスタマーエンジニアに対するアクセス許可ができます。管理者は対象機器のすべての管理権限（機器管理者、ユーザー管理者、文書管理者、ネットワーク管理者）を持っています。

RC Gate モニターを起動するには

★重要

- パスワードを入力するとき、入力した文字を隠す機能（たとえば「*」などのダミー文字を表示）を持ったブラウザを必ず使用してください。
- RC Gate モニターログイン時のパスワードは変更してください。工場出荷時のパスワードでは運用しないでください。
- セキュリティの観点から、5分のあいだに3回ログインに失敗すると、本機へのログインが禁止になります。1分後に再度ログインできます。
- パスワード変更後は忘れないようにしてください。万一忘れてしまったときは、サービス実施店に連絡し、機械再設定をすることになります。

1. パソコンの Web ブラウザーを起動する。
2. Web ブラウザーの URL 欄に、「http://{LAN ポートの IP アドレス}:8080/index.html」と入力する。
3. ユーザー名を「admin」と入力する。
ユーザー名は変更できません。
4. パスワードを入力する。

工場出荷時のパスワードは「administrator」です。RC Gate モニターを運用する前に、必ずパスワードを変更してください。詳細は、P.26「パスワードを変更する」を参照してください。



5. [言語] で表示言語を選択する。
6. [ログイン] をクリックする。

↓ 補足

- RC Gate モニターにアクセスすると、セキュリティーログに記録されます。詳細は、P.75 「セキュリティーログ」を参照してください。

RC Gate モニターを終了するには

★ 重要

- Web ブラウザーを終了する前は必ず [ログアウト] をクリックしてください。
 - 操作を終了するときは [ログアウト] をクリックしてください。15 分間操作をしないとスクリーンロックがかかります。スクリーンロックの時間は変更ができます。
1. ヘッダーエリアの [ログアウト] をクリックする。
 2. RC Gate モニターからログアウトしたことを確認し、Web ブラウザーを終了する。

2. セットアップする

ここでは、本機を RS センターシステムに登録する手順について説明します。

導入時の設定をする

最初にログインしたときに導入時の設定が表示されます。

以下の設定がおこなえます。

2

日付・時刻の設定をする

タイムゾーン、年月日設定、時刻設定の設定を行います。


設定内容については P.63 「日付・時刻設定」を参照してください。

設定終了後、（保存）をクリックしてください。

ネットワークの設定をする

ネットワークの設定を行いません。

設定内容については P.64 「ネットワーク設定」を参照してください。

設定終了後、（保存）をクリックしてください。


IEEE 802.1x 認証の設定をする

IEEE 802.1x 認証の設定を行いません。

設定内容については P.66 「IEEE 802.1x 認証設定」を参照してください。

設定終了後、（保存）をクリックしてください。

↓ 補足

- [IEEE 802.1x 認証設定] 画面で、（保存）をクリックすると [プロキシサーバー設定]、[@Remote システムへの接続] の設定ができます。

プロキシサーバーの設定をする

プロキシサーバーの設定を行いません。

設定内容については P.70 「ネットワーク設定」を参照してください。

RS センターシステムへ接続する

接続の設定を行いません。

設定内容については P.81 「@Remote システムへの接続」を参照してください。

 補足

- [@Remote システムへの接続] 画面でお申し込み受付番号を入力します。[登録] をクリックすると残りの導入時の設定画面が表示されます。

@Remote タスクの実行の許可設定

次の @ Remote タスクの権限を許可するか設定できます。

- 機器の登録
- オートディスカバリー
- 機器ステータス情報通知
- 機器カウンター情報通知
- 機器サービスコール
- 機器の手動コール/顧客コール
- 機器アラームコール
- 機器サブライコール
- 機器情報の変更通知
- 機器ファームウェアのアップデート
- システムファームウェア更新
- @Remote Center System からの機器登録
- @Remote Center System からの情報設定要求
- @Remote Center System からの情報取得要求

設定内容については P.84 「@Remote タスクの実行許可設定」を参照してください。

オートディスカバリー

オートディスカバリー設定を行いません。


設定内容については P.86 「オートディスカバリー」を参照してください。

設定終了後、 (保存) をクリックしてください。

SNMP

SNMP 設定を行いません。

設定内容については P.53 「SNMP 設定」を参照してください。

設定終了後、（保存）をクリックしてください。

2

機器の追加


機器の追加を行いません。

設定内容については P.47 「機器の追加」を参照してください。

システムログ

システムログのダウンロードとログレベル変更ができます。

設定内容については P.74 「システムログ」を参照してください。

設定終了後、（保存）をクリックしてください。

導入完了

[OK] ボタンをクリックすることで、導入を終了させることができます。

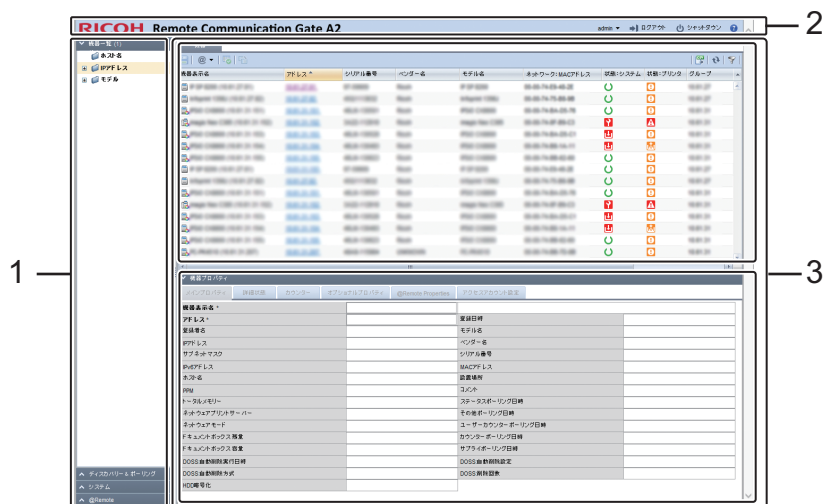
1. [OK] ボタンをクリックする。

3. 機器の設定方法と見かた

ここでは、RC Gate モニターの各画面でできる操作について説明します。

画面の見かた

RC Gate の基本的な画面構成について、機器一覧の画面を例に説明します。



DJH005

1. セクションエリア

各セクションの項目が表示されます。

各セクションをクリックすると、セクションの詳細項目がツリー状に表示されます。

2. ヘッダーエリア

- admin

RC Gate モニターログイン時のパスワードを変更できます。パスワードの変更については、P.26 「パスワードを変更する」を参照してください。

- ログアウト

RC Gate モニターからログアウトします。ログアウトの手順については、P.19 「RC Gate モニターを終了するには」を参照してください。

- シャットダウン

RC Gate をシャットダウンしスタンバイの状態にします。シャットダウンの手順については、P.27 「RC Gate シャットダウン」を参照してください。

- ?

リコーホームページに接続します。ここで『セットアップガイド』と『使用説明書』がダウンロードできます。

3. タブエリア

上部画面はリストエリア、下部画面は詳細エリアです。

選択したセクションに応じた操作画面が表示されたり、複数の操作画面をタブで切り替えたりできます。複数のタブを一括で閉じるときは、タブ部分を右クリックして [他をすべて閉じる] または [すべてを閉じる] をクリックします。

- リストエリア（上部画面）

機器やタスクなど、さまざまな一覧がタブエリアの上部に表示されます。リストエリアのツールバーには各種アイコンが並び、以下のような操作ができます。

- 一覧の情報などをエクスポート、インポートできます。
P.30 「システムの設定をインポート/エクスポートする」を参照してください。
- 任意のビューに切り替えることができます。
P.27 「表示アイコンについて」を参照してください。
- 一覧をソート、分類できます。
P.29 「一覧をソート、分類する」を参照してください。
- Web Image Monitor にアクセスできます。

機器の IP アドレスをクリックします。機器によっては、表示される機器監視ツールが異なります。

- 詳細エリア（下部画面）

タブエリアの下部には、リストエリアで選択した機器やタスクなどの詳細情報を表示し、編集や設定をします。

詳細エリアのネームバーをクリックすると、詳細エリアを開閉します。ネームバーをドラッグすると、エリアのサイズ（高さ）を変更できます。

パスワードを変更する

★重要

- パスワードは工場出荷時のままでは使用せず、変更して使用してください。またパスワードの最小文字数を変更できます（工場出荷時の設定は 8 文字です）。新しいパスワードは 128 文字（ASCII 文字）までで設定してください。
- パスワードとして使用できるのは、以下の ASCII 文字だけです。（（スペース）"（ダブルクォーテーション）!%&()'*,-.:;\$; <=>?[\] ^ _ { | } ~ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 # a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z @ A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z）
- 「エントリーの情報変更に失敗しました。」というエラーメッセージが表示されたときは、現在のパスワードが正しく入力されていることを確認し、パスワードが使用可能な文字であるか、また使用文字数の範囲内であるかどうかを確認し再設定してください。
- パスワードは半年以内の周期で変更してください。
- 辞書にあるような単語や同じ文字の繰り返しなど、容易に類推される単語はパスワードとして使用しないでください。
- パスワードを書き留めて、机など人目にふれるところに貼らないでください。

- 新パスワードは、次回のログインから有効になります。
 - パスワード変更後は忘れないようにしてください。万一忘れてしまったときは、サービス実施店に連絡し、機械再設定をすることになります。
1. ヘッダーエリアの [admin] をクリックし、[パスワードを変更] をクリックする。
 2. [パスワード] で現在設定されているパスワードを入力する。
 3. [新しいパスワード] で新しいパスワードを入力する。
 4. [新しいパスワード (確認)] で入力ミス等を防ぐために、新しいパスワードを再度入力する。
 5. [OK] をクリックする。

RC Gate シャットダウン

★重要

- 電源プラグを抜く前にシャットダウンが完了していないと、記憶媒体が破損する場合があります。そのとき、最新ログが失われることがあります。電源プラグを抜く前には、必ずシャットダウンしてスタンバイの状態にしてください。
1. ヘッダーエリアの [シャットダウン] をクリックする。
 2. ダイアログが表示されたら [はい] をクリックする。





↓補足










- 電源ボタンからでもスタンバイの状態にできます。

表示アイコンについて

RC Gate モニターで表示されるすべての操作アイコンと機器アイコンについて説明します。機能によっては表示されない操作アイコンもあります。

操作アイコン









アイコン	内容
	新規に一覧に追加する機器やタスクを追加/削除します。
	編集した機器情報や、設定したタスクのテンプレートを保存します。
	ディスカバリーした結果を即時実行するときに▶ (即時実行) をクリックします。
	一覧の情報を CSV ファイルでエクスポートまたはインポートします。

アイコン	内容
	一覧の情報を再取得します。RC Gate が一時的に取得している情報を再取得します。
	一覧の情報をフィルタリングします。クリックすると、一覧の項目名の上に入力・選択エリアが表示されます。検索子を入力または選択し、入力エリア右端の  (フィルター) をクリック、もしくは Enter キーを押すと、該当するエントリーが表示されます。
	リコーホームページに接続します。
	ルーターから機器情報を自動で取得します。 手順方法については、P.58 「検索する」を参照してください。
	デバッグログの表示、機器の登録、暗号の長さを変更することができます。
	RS センターシステムから指定された機器のカウンター情報を、ユーザー別に収集して処理ができるかの確認を行います。クリックするとテストが実施され、結果ダイアログ (成功/失敗) が表示されます。
	機器一覧で選択された機器のアクセスプロファイルを変更します。 アクセスプロファイルの設定方法は、P.57 「アクセスプロファイルを指定する」を参照してください。
	手動でポーリングを実行できます。

↓ 補足

- CSV ファイルでエクスポートできる情報や CSV ファイルのファイル名については、P.30 「システムの設定をインポート/エクスポートする」を参照してください。
- CSV ファイルのフォーマットについては、P.32 「CSV ファイルのフォーマット」を参照してください。

機器アイコン

アイコン	内容
	リコー製デジタルフルカラー複合機*
	リコー製デジタルモノクロ複合機*
	リコー製カラーレーザープリンター*
	リコー製モノクロレーザープリンター*
	リコー製ハイブリッド複合機
	リコー製ジェルジェットプリンター
	リコー OEM のカラー/モノクロ複合機またはプリンター
	他社のカラー/モノクロ複合機またはプリンター

* 使用している機器によって表示される機器アイコンが異なります。

一覧をソート、分類する

一覧を見やすく並び替える、ソートや分類について説明します。

列の項目名にカーソルを合わせ右クリックすると、ソートや分類を行う以下のメニューが表示されます。機能によっては表示されないメニューもあります。

メニュー項目	内容
昇順でソート	対象の列を昇順でソートします。
降順でソート	対象の列を降順でソートします。
ソートを設定する	ソートダイアログが表示されます。 ⊕ (追加) をクリックすると、[カラム] の項目ごとにソート順が変更できます。設定後 [適用] をクリックしてください。
ソートを解除する	ソート状態を解除します。
すべてのカラムを自動調整する	すべてのカラム幅を自動調整して表示します。 カラムの項目名がすべて文字切れしない幅に表示されます。
自動調整	対象のカラム幅を調整します。 対象のカラムの項目名が全て文字切れしない幅に表示されます。
カラム	一覧に表示する、または非表示にする項目を設定します。 サブメニューの項目名リストで、表示する項目にはチェックを付け、非表示にする項目はチェックを外します。
固定する (項目名)	対象の列を含む左の列を固定化し、横スクロールしても隠れないようにします。(項目名) には項目名が表示されません。
固定を解除する (項目名)	対象の列の固定化を解除します。(項目名) には項目名が表示されます。
右寄せ	対象の列の情報を、右に寄せて表示します。
左寄せ	対象の列の情報を、左に寄せて表示します。

システムの設定をインポート/エクスポートする

RC Gate に CSV ファイルをインポートすることで、機器やユーザー情報など、大量の情報を一括で登録できます。

CSV ファイルでインポート/エクスポートできる情報


情報の種類	インポート	エクスポート
機器一覧	-	○
ディスカバリー範囲	○	○
セキュリティログ	-	○
機器 FW 更新禁止期間シフト設定	○	-

↓ 補足

- エクスポートする CSV ファイルのファイル名には、作成日時と機能名が自動的に付与されます。作成日時の形式は、[表示設定] で設定します。表示設定については、P.63 「システムの設定一覧」を参照してください。
- インポートする CSV ファイルを編集するときは、正しいフォーマットに従って編集してください。CSV ファイルのフォーマットについては、P.32 「CSV ファイルのフォーマット」を参照してください。
- CSV ファイルをインポートするときは、P.30 「CSV ファイルを取り込む」を参照してください。
- CSV ファイルをエクスポートするときは、P.31 「CSV ファイルに書き出す」を参照してください。


CSV ファイルを取り込む

ディスカバリー範囲、機器 FW 更新禁止期間シフトを CSV ファイルとして取り込みます。

1.  (CSV ファイルからデータを取り込みます。) をクリックする。
2. [参照...] をクリックする。
3. インポートする CSV ファイルを指定し、[開く] をクリックする。
4. [アップロード] をクリックする。
5. [OK] をクリックする。

CSV ファイルに書き出す

機器一覧、ディスクバリー範囲、セキュリティーログを CSV ファイルとして保存します。

1.  (CSV ファイルへのデータ書き出し) をクリックする。
2. 保存先とファイル名を指定し、[保存] をクリックする。

CSV ファイルのフォーマット

RC Gate のインポート/エクスポートには CSV ファイルを使用します。

機器の情報を CSV ファイルに書き出したり (📄)、書き出した内容を編集して CSV ファイルに取り込んだり (📄) できます。

ここでは、ディスカバリー範囲のブロードキャスト用 CSV ファイルを例に記述します。可変する部分は X で表現しています。

3

CSV ファイルのフォーマット記述例

```
# Format Version: 6.1.1.X
# Generated at: XXXX/XX/XX XX:XX:XX
# Function Name: Broadcast Discovery Range
サブネット          サブネットマスク   レンジ名   説明
X.X.X.X             X.X.X.X           XXXX      XXXX
```

DJG151

以下のフォーマットは、CSV ファイル上での項目内容です。

↓ 補足

- CSV ファイルの文字コードには S-JIS だけ使用します。
- データにカンマ「,」またはダブルクォーテーション「"」が含まれているときは、データ全体をダブルクォーテーションで囲みます。また、ダブルクォーテーションを含むデータをダブルクォーテーションで囲むとき、元のダブルクォーテーションはそれぞれ 2 つずつ「""」にしてください (例: 「a "b" c」 → 「"a ""b"" c"」)。

機器一覧の CSV ファイルフォーマット

機器情報の CSV ファイルは、以下のフォーマットで書き出されます。

可変する部分は (太字) で表現しています。

行番号	記述内容
1	# Format Version: 6.1.1.X
2	# Generated at: (書き出した日時)
3	# Function Name: Device List
4	" (カラムの項目名) "
5	" (カラムの項目名に対する機器の値) "

4 行目の「カラムの項目名」は、機器リストのヘッダーに表示されているカラムの項目名が、左から順に 1 列ごとに書き出されます。

5 行目以降には、エクスポートするときに機器リストに表示されている機器の値や、表示されていないカラムの値も全て 1 行ごとに書き出されます。

ディスカバリー範囲の CSV ファイルフォーマット

ディスカバリー範囲の検索方法により、2 種類の CSV ファイルに分類されます。

ブロードキャスト用

ブロードキャストの CSV ファイルは、以下の機能の画面から読み書きできます。

- [ディスカバリー&ポーリング] - [機器の追加] の [ブロードキャスト] 設定画面
- [@Remote] - [@Remote 設定] - [オートディスカバリー] の [ブロードキャスト] 設定画面

可変する部分は **(太字)** で表現しています。

行番号	記述内容
1	# Format Version: 6.1.1.X
2	# Generated at: (書き出した日時)
3	# Function Name: Broadcast Discovery Range
4	" (列名) "
5	" (列名に対応する値) "

4 行目の「列名」と列番号、それに対応する 5 行目以降の値は以下のとおりです。

列名と対応する値

列番号	列名	5 行目以降の値
A	サブネット	サブネットアドレスを入力します。IPv4 アドレスを指定できます。
B	サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
C	レンジ名	ディスカバリー範囲の名称を 61 文字以内で入力します。
D	説明	ディスカバリー範囲の説明を 61 文字以内で入力します。

C と D の列は、[@Remote 設定] の [オートディスカバリー] のブロードキャスト設定から書き出したときだけ記載されます。ただし、C と D の列を含む CSV ファイルを、[機器の追加] のブロードキャスト設定に読み込んでも問題はありません。また、[機器の追加] のブロードキャスト設定で書き出した CSV ファイルを、[オートディスカバリー] のブロードキャスト設定として読み込んでも問題ありません。

↓ 補足

- 1～3 行目は識別用の情報となるため、変更しないでください。

ネットワーク検索用

ネットワーク検索の CSV ファイルは、以下の機能の画面から読み書きできます。

- [ディスカバリー&ポーリング] - [機器の追加] の [ネットワーク検索] 設定画面
- [ディスカバリー&ポーリング] - [登録済み機器再検索] 設定画面
- [@Remote] - [@Remote 設定] - [オートディスカバリー] の [ネットワーク検索] 設定画面

可変する部分は **(太字)** で表現しています。

行番号	記述内容
1	# Format Version: 6.1.1.X
2	# Generated at: (書き出した日時)
3	# Function Name: Network Search Discovery Range
4	" (列名) "
5	" (列名に対応する値) "

4 行目の「列名」と列番号、それに対応する 5 行目以降の値は以下のとおりです。

列名と対応する値

列番号	列名	5 行目以降の値
A	種別	指定する値の種類を、「One Host Name」、「One IP Address」、「Specify IP Range」、または「IPv6 Address」のどれかで指定します。
B	開始	ディスカバリーの対象となるホスト名、IP アドレス、IPv6 アドレス、または IP アドレス範囲の開始アドレスを入力します。
C	終了	ディスカバリーの対象となる IP アドレス範囲の終了アドレスを入力します。
D	サブネットマスク	IP アドレス範囲のサブネットマスクを入力します。
E	0=対象/1=除外	設定する範囲をネットワーク検索の対象として含めるのか、除外するのかを指定します。「0」を入力したデータはネットワーク検索に含まれ、「1」を入力したデータはネットワーク検索から除外されます。
F	レンジ名	ディスカバリー範囲の名称を 61 文字以内で入力します。

列番号	列名	5 行目以降の値
G	説明	ディスカバリー範囲の説明を入力します。文字数は 0～61 文字です。

F と G の列は、[@Remote 設定] の [オートディスカバリー] のネットワーク検索設定から書き出したときだけ記載されます。ただし、F と G の列を含む CSV ファイルを、[機器の追加] や [登録済み機器再検索] のネットワーク検索設定に読み込んでも問題はありません。また、[機器の追加] や [登録済み機器再検索] のネットワーク検索設定で書き出した CSV ファイルを、[オートディスカバリー] のネットワーク検索設定として読み込んでも問題ありません。

↓ 補足

- 1～3 行目は識別用の情報となるため、変更しないでください。

セキュリティーログの CSV ファイルフォーマット

セキュリティーログの CSV ファイルは、以下のフォーマットで書き出されます。可変する部分は **(太字)** で表現しています。

行番号	記述内容
1	# Format Version: 6.1.1.X
2	# Generated at: (書き出した日時)
3	# Function Name: Security Logs
4	" (列名) "
5	" (列名に対応する値) "

列名と対応する値

列番号	列名	5 行目以降の値
A	日付	ログ情報が記録された日時を表示します。
B	ロール	RC Gate にアクセスしたユーザータイプを表示します。
C	ユーザー名	ユーザー名を表示します。
D	処理内容	ログの発生要因を表示します。
E	セキュリティーログ詳細	処理内容の詳細を表示します。
F	結果	結果を表示します。

機器 FW 更新禁止期間シフト設定の CSV フォーマット

機器 FW 更新禁止期間シフト設定は、以下の CSV フォーマットで読み込むことができます。

可変する部分は **(太字)** で表現しています。

行番号	記述内容
1	# Format Version: 6.1.1.X
2	# Generated at: (任意の時刻)
3	# Function Name: Shift Device Firmware Update Prohibited Period
4	" (列名) "
5	" (列名に対応する値) "

列名と対応する値

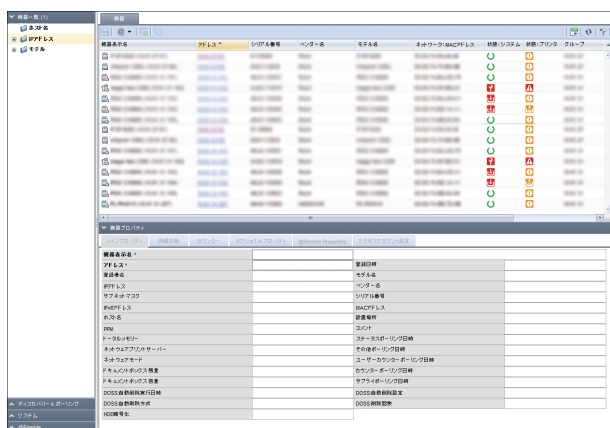
列番号	列名	5 行目以降の値
A	種別	指定する値の種類を、「One Host Name」、「One IP Address」、「Specify IP Range」、または「IPv6 Address」のどれかで指定します。
B	開始	ディスカバリーの対象となるホスト名、IP アドレス、IPv6 アドレス、または IP アドレス範囲の開始アドレスを入力します。
C	終了	シフト設定の対象となる IP アドレス範囲の終了アドレスを入力します。
D	サブネットマスク	IP アドレス範囲のサブネットマスクを入力します。
E	シフト時間 [H]	シフト時間を、-12 から 12 までの間の整数で指定します。
F	説明	シフト設定の説明を入力します。文字数は 0~61 文字です。

4. 機器一覽

ここでは、機器一覽に表示される各項目について説明します。

機器一覽の設定項目一覽

[機器一覽] セクションには本製品で管理できる機器の一覽が表示されます。[機器一覽] をクリックすると、本画面が表示されます。



以下の 3 種類のグループで検索した機器を自動的に分類します。

ホスト名

ホスト名をドメインの階層ごとに区切ってツリー表示します。実際のドメインであるかどうかにかかわらず、ドット (.) で階層を区切ります。

IP アドレス

IPv4 アドレスを 8 ビットごとに区切ってツリー表示します。

モデル

機器の製造元やモデル名で分類されます。

↓ 補足

- 機器一覽の項目は RS センターシステムに登録した機器だけ表示されます。機器一覽へ機器を追加する方法と RS センターシステムに機器に登録する方法については、P.58 「機器を検索する」を参照してください。

機器のプロパティを確認する

RC Gate で取得する機器のプロパティについて説明します。

機器一覧から機器を選択すると、ディスカバリーやポーリングで取得したその機器の情報が詳細エリアに表示されます。

★重要

- 機器によっては表示されない項目があります。

機器のプロパティを表示する

4

1. [機器一覧] セクションからカテゴリ、グループをクリックし、機器一覧を表示する。
2. リストエリアから目的の機器を選択する。
3. 機器プロパティに選択した機器の情報が表示される。

以下のタブを切り替えて、機器の情報や状態を確認してください。

- メインプロパティ
- 詳細状態
- カウンター
- オptionalプロパティ
- @Remote Properties
- アクセスアカウント設定

メインプロパティ

機器表示名やモデル名、IP アドレスなどの一般情報に関する詳細情報、その他にも、機器の登録日時、シリアル番号、MAC アドレスなどが表示されます。

- 機器表示名
RC Gate で表示される機器の名称が表示されます。任意に変更できます。
- アドレス
RC Gate が機器にアクセスするためのアドレスが表示されます。
- 登録日時
ディスカバリーや機器を手動で追加したときの登録日時が表示されます。
- 登録者名
"localhost"と表示されます。

- モデル名
- IP アドレス
- ベンダー名
- サブネットマスク
- シリアル番号
- IPv6 アドレス
- MAC アドレス
- ホスト名
- 設置場所

機器に設定されている設置場所が表示されます。

- PPM
- コメント

機器に設定されているコメントが表示されます。

- トータルメモリー
- ステータスポーリング日時
- ネットウェアプリントサーバー
- その他ポーリング日時
- ネットウェアモード
- ユーザーカウンターポーリング日時
- ドキュメントボックス残量
- カウンターポーリング日時
- ドキュメントボックス容量
- サプライポーリング日時
- DOSS:自動削除実行日時
- DOSS:自動削除設定
- DOSS:自動削除方式
- DOSS:削除回数
- HDD 暗号化

↓ 補足

- 「設置場所」「コメント」情報は、リコー製の複合機やプリンターのときは、Web Image Monitor で設定した内容が表示されます。

詳細状態














[プリンター状態]、[給紙トレイ]、[トナー/インク]、[排紙トレイ] タブを切り替えて、機器の状態を確認できます。

プリンター状態

- システム

システムの状態が確認できます。アイコンにカーソルを合わせると、詳細な情報が表示されます。複数の状態が発生したときは、優先度の高いものが表示されません。








以下のアイコンの説明は優先度の高い順に並べています。








- ：機器が応答しません
- ：サービスコールが発生しています
- ：交換/補給してください
- ：トナー/インクがなくなりました
- ：紙づまりが発生しています
- ：用紙がありません
- ：ADF で紙づまりが発生しています
- ：メンテナンス中です
- ：ファクス通信エラーが発生しています
- ：カバーが開いています
- ：エラーが発生しています
- ：アクセス攻撃を検知しました
- ：使用できます

- プリンター

プリンター機能の状態を確認できます。アイコンにカーソルを合わせると、詳細な情報が表示されます。複数の状態が発生したときは、優先度の高いものが表示されます。

以下のアイコンの説明は優先度の高い順に並べています。















- ：機器が応答しません
- ：トナー/インクがなくなりました
- ：紙づまりが発生しています
- ：用紙がありません
- ：カバーが開いています
- ：エラーが発生しています
- ：オフライン状態です

-  : ウォームアップ中です
-  : 使用中です
-  : トナー/インクが残りわずかです
-  : 用紙が残りわずかです
-  : 注意
-  : 省エネモードです
-  : 使用できます

• コピー状態

コピー機能の状態を確認できます。アイコンにカーソルを合わせると、詳細な情報が表示されます。複数の状態が発生したときは、優先度の高いものが表示されます。




以下のアイコンの説明は優先度の高い順に並べています。


-  : 機器が応答しません
-  : サービスコールが発生しています
-  : トナー/インクがなくなりました
-  : 紙づまりが発生しています
-  : ADF で紙づまりが発生しています
-  : 用紙がありません
-  : カバーが開いています
-  : エラーが発生しています
-  : ウォームアップ中です
-  : 使用中です
-  : トナー/インクが残りわずかです
-  : 注意
-  : 省エネモードです
-  : 使用できます


• ファクス状態

ファクス機能の状態を確認できます。アイコンにカーソルを合わせると、詳細な情報が表示されます。複数の状態が発生したときは、優先度の高いものが表示されます。

以下のアイコンの説明は優先度の高い順に並べています。

-  : 機器が応答しません
-  : サービスコールが発生しています
-  : メンテナンス中です

 : ファクス通信エラーが発生しています


 : ADF で紙づまりが発生しています

 : カバーが開いています

 : エラーが発生しています

 : 使用中です


 : トナー/インクがなくなりました


 : 紙づまりが発生しています

 : 用紙がありません

 : ウォームアップ中です

 : トナー/インクが残りわずかです

 : 注意


 : 省エネモードです


 : 使用できます


• スキャナー状態

スキャナー機能の状態を確認できます。アイコンにカーソルを合わせると、詳細な情報が表示されます。複数の状態が発生したときは、優先度の高いものが表示されます。

以下のアイコンの説明は優先度の高い順に並べています。

 : 機器が応答しません


 : サービスコールが発生しています


 : ADF で紙づまりが発生しています

 : カバーが開いています

 : エラーが発生しています

 : 使用中です



 : 注意

 : 省エネモードです

 : 使用できます






給紙トレイ

給紙トレイの種類、それぞれの給紙トレイにセットされている用紙の向き、サイズ、種類、残量を確認できます。

  : 用紙の給紙方向に対する用紙の向きを示します。

ロール紙をセットしている機器では、用紙の残量を示す右側のアイコンが表示されます。















  : 用紙がありません

-  : 0~20%
-  : 20~40%
-  : 40~60%
-  : 60~80%
-  : 80~100%

トナー/インク

トナー/インクの色、それぞれのトナー/インク残量を確認できます。トナー/インク残量を検知できない機器や一部のモノクロ複合機では、「取得情報なし」などと表示されることがあります。




インジケーターが示すトナー/インクの残量を以下に説明します。インジケーターの色は、該当するトナーと同じ色になります。以下はブラックを例にしています。

-   : トナー/インクがなくなりました
-   : トナー/インクが残りわずかです
-   : 0~20%
-   : 20~40%
-   : 40~60%
-   : 60~80%
-   : 80~100%

排紙トレイ

排紙トレイの種類、それぞれの状態が確認できます。

アイコンが示す排紙トレイの状態を以下に説明します。

-  : 排紙トレイが用紙で満杯です
-  : 排紙トレイに用紙があります
-  : エラーが発生しています
- (何も表示されない) : 正常な状態です

カウンター

カラー、モノクロでの印刷枚数や送信枚数などのカウンター情報が確認できます。

- 機器カウンタートータル
 - コピー、プリンター、ファクス機能によるカウンターの合計です。
- コピー：白黒、フルカラー、単色、2色
 - コピー機能のカウンターです。
- プリンター：白黒、フルカラー、2色

プリンター機能のカウンターです。

- フルカラーモノカラー
- エコノミーカラー
- ファクス印刷：白黒、単色

ファクス機能のカウンターです。

- A3/DLT
- A2
- 両面印刷
- 送信トータル：カラー、白黒

スキャナー送信機能、ファクス送信機能のカウンターの合計です。

- ファクス送信
- スキャナー送信：カラー、白黒
スキャナー送信機能のカウンターです。
- トータルモノカラー
- トータルカラー
- カラーカバレッジ：ページ数、パーセンテージ
- 白黒カバレッジ：ページ数、パーセンテージ
- カラー：1、2、3
- アクティブ
- 無稼動状態
- 予熱
- スリープ
- オフモード

オプションプロパティ

[カスタムプロパティ]、[インストールアプリケーション]、[ファームウェアとプラットフォーム]、[機能] タブを切り替えて、それぞれの情報が確認できます。

カスタムプロパティ

ユーザーが自由に設定できるプロパティです。設定方法については、P.45「カスタムプロパティを設定する」を参照してください。

インストールアプリケーション

アプリケーション、バージョン、プロダクト ID が確認できます。

ファームウェアとプラットフォーム

各ファームウェアのバージョンが確認できます。



機能

機器に搭載されている機能、エミュレーションについて確認できます。

- 機能
手差しトレイ給紙、両面印刷、厚紙印刷など、機器に搭載している機能を確認できます。
- エミュレーション
機器に搭載しているエミュレーションを確認できます。

カスタムプロパティを設定する

カスタムプロパティは、任意の情報を機器に付与するためのプロパティです。管理番号や資産番号などの情報を、個々の機器に設定できます。

1. セクションエリアの [システム] をクリックする。
2. セクションツリーの [サーバー設定] カテゴリから、[表示設定] をクリックする。
3. カスタムプロパティで使用する項目名を入力する。
項目名は 1~255 文字まで指定でき、最大 10 個のカスタムプロパティを作成できます。ただし、同名のカスタムプロパティは作成できません。
4.  (保存) をクリックする。
5. 機器一覧から目的の機器を選択する。
6. 機器プロパティの [オプションプロパティ] タブをクリックし、[カスタムプロパティ] タブをクリックする。
7. カスタムプロパティの [値] の列をダブルクリックし、独自の情報を入力する。
文字数は 1~255 文字までです。
8. 設定が完了したら、 (保存) をクリックする。

@Remote Properties

RS センターシステムで管理される機器情報の一部が表示されます。

- 機器 ID
- 接続タイプ
- カットオフ日付

- サービスデポ
- サービスデポの電話番号
- 消耗品発注先
- 消耗品発注先電話番号
- 暗号化の長さ


アクセスアカウント設定

4

RC Gate が機器との認証に使用している SNMP、機器管理者のアクセスプロファイルの情報を確認できます。また、機器との通信に使用するアクセスプロファイルの表示、変更や管理したい機器に対して管理者を変更することができます。アクセスプロファイルの設定方法は、P.57「アクセスプロファイルを指定する」を参照してください。

アクセスアカウントの設定方法については、P.55「アクセスアカウントを設定する」を参照してください。

機器一覧から手動でポーリングを実行する

1. 機器一覧から目的の機器を選択する。
2. リストエリアの、 (メニュー) をクリックし、[ポーリングの実施] をクリックする。
3. 実行するポーリングの種類を選択して、[OK] をクリックする。

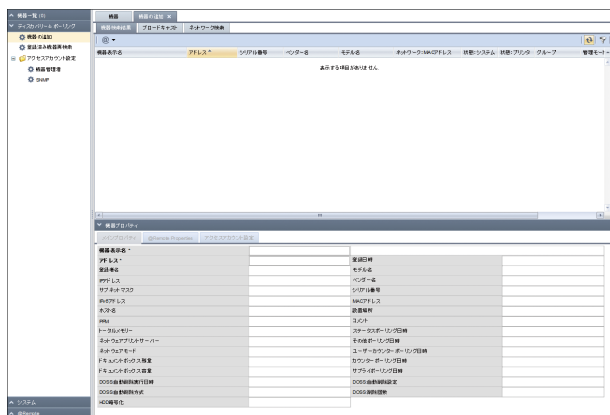
5. ディスカバリー&ポーリング

ここでは、ディスカバリーやポーリングの機能で機器に接続するための設定ができます。

ディスカバリー&ポーリングの設定項目一覧

機器の追加

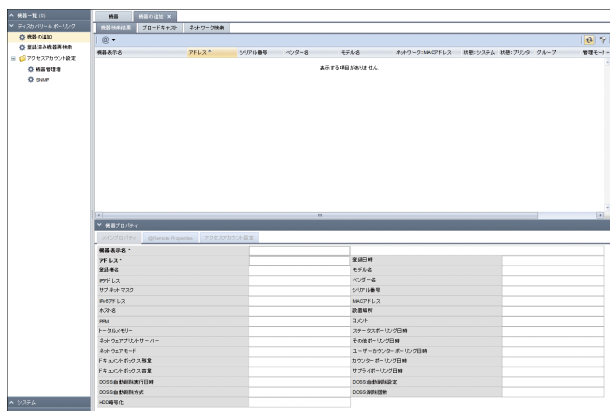
任意の機器を追加します。



【機器検索結果】タブ

[ブロードキャスト] タブ、[ネットワーク検索] タブで機器を検索し、検出されて追加された機器が本画面に表示されます。

[ディスカバリー&ポーリング] - [機器の追加] をクリックし、[機器検索結果] タブをクリックすると、本画面が表示されます。

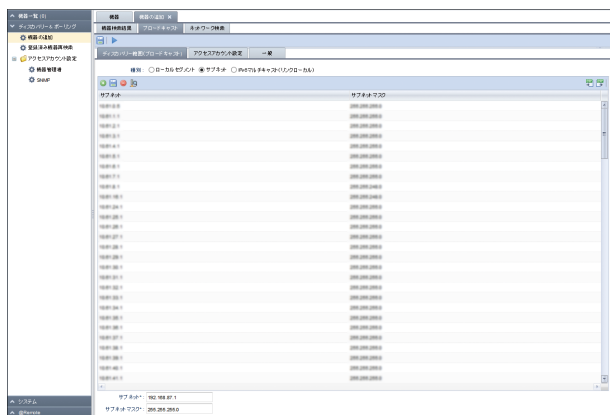


項目名	説明
リストエリア	追加された機器が一覧となって表示されます。
詳細エリア	[メインプロパティ]、[@Remote Properties]、[アクセスアカウント設定] を表示します。 機器プロパティの詳細は P.38 「機器のプロパティを確認する」を参照してください。

5

[ブロードキャスト] タブ

ブロードキャストによるディスカバリーのタスクがリストに表示されます。ブロードキャストのタスクは、[ディスカバリー範囲 (ブロードキャスト)] タブ、[アクセスアカウント設定] タブ、[一般] タブで構成されています。



[ディスカバリー範囲 (ブロードキャスト)] タブ

ブロードキャストによるディスカバリーの対象範囲を設定します。

[ディスカバリー範囲（ネットワーク検索）] タブ

ネットワーク検索によるディスカバリーの対象範囲を設定します。

項目名	説明
対象/除外	指定する範囲をネットワーク検索を対象にするのか、除外するのかを選択します。
種別	指定する値の種類を、[ホスト名]、[IP アドレス]、[IP 範囲指定]、または [IPv6 アドレス] から選択します。
ホスト名	種別で [ホスト名] を選択したときにだけ設定します。文字数は 1～255 文字です。
開始	ディスカバリーの対象となる IP アドレス、IPv6 アドレス、または IP アドレス範囲の開始アドレスを入力します。
終了	ディスカバリーの対象となる IP アドレス範囲の終了アドレスを入力します。
サブネットマスク	「開始」と「終了」で指定した IP アドレス範囲のサブネットマスクを入力します。

[アクセスアカウント設定] タブ

ディスカバリーをするときに機器へのアクセスに使用するアカウントを設定します。使用するアカウントを、[未設定アカウント] リストから [▲] [▼] ボタンまたはドラッグアンドドロップで [設定済みアカウント] リストに移動します。

[一般] タブ

機器発見時に、DNS 逆引き機能を有効にしているときは、機器発見時の機器アドレスをホスト名へ逆引きします。ホスト名を得られなかったときは、機器発見時の機器アドレスをそのままにします。

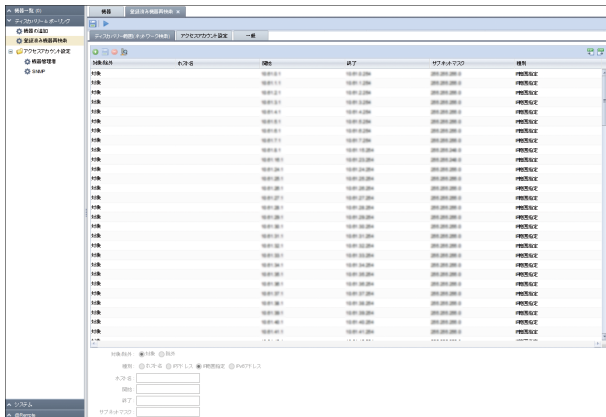
項目名	説明
DNS 逆引き	機器のホスト名を識別するために DNS の逆引きを行うときは、選択してください。

これらの設定項目に関連した機能の概要や操作の説明については、P.58 「機器を検索する」を参照してください。

登録済み機器再検索

再検索したい機器の検索範囲と検索条件を設定します。

登録済み機器再検索のタスクは、[ディスカバリー範囲（ネットワーク検索）] タブ、[アクセスアカウント設定] タブ、[一般] タブで構成されています。



【ディスカバリー範囲（ネットワーク検索）】タブ

ネットワーク検索によるディスカバリーの対象範囲を設定します。

項目名	説明
対象/除外	指定する範囲をネットワーク検索を対象にするのか、除外するのかを選択します。
種別	指定する値の種類を、[ホスト名]、[IP アドレス]、[IP 範囲指定]、または [IPv6 アドレス] から選択します。
ホスト名	種別で [ホスト名] を選択したときにだけ設定します。文字数は 1～255 文字です。
開始	ディスカバリーの対象となる IP アドレス、IPv6 アドレス、または IP アドレス範囲の開始アドレスを入力します。
終了	ディスカバリーの対象となる IP アドレス範囲の終了アドレスを入力します。
サブネットマスク	「開始」と「終了」で指定した IP アドレス範囲のサブネットマスクを入力します。

【アクセスアカウント設定】タブ

ディスカバリーのときに機器へのアクセスに使用するアカウントを設定します。使用するアカウントを、[未設定アカウント] リストから [▲] [▼] ボタンまたはドラッグアンドドロップで [設定済みアカウント] リストに移動します。

【一般】タブ

機器発見時に、DNS 逆引き機能を有効にしているときは、機器発見時の機器アドレスをホスト名へ逆引きします。ホスト名を得られなかったときは、機器発見時の機器アドレスをそのままにします。

項目名	説明
DNS 逆引き	機器のホスト名を識別するために DNS の逆引きを行うときは、選択します。

設定項目に関連した機能の概要や操作の説明については、P.58 「機器を検索する」を参照してください。

アクセスアカウント設定

アクセスアカウント設定には、[機器管理者] と [SNMP] の設定ができます。

アクセスアカウントの設定方法については、P.55 「アクセスアカウントを設定する」を参照してください。

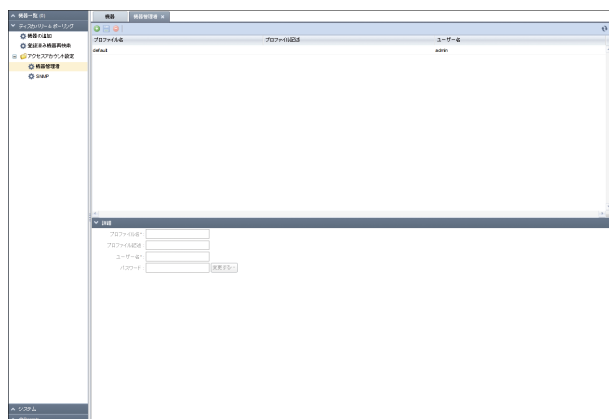
★重要

- ディスカバリーとポーリングによって機器を管理するために、アクセスアカウントの認証情報は機器に設定されている認証情報と一致させてください。

5

機器管理者設定

機器管理者で使用するアクセスアカウントがリストエリアに表示されます。[ディスカバリー&ポーリング] - [アクセスアカウント設定] をクリックし、[機器管理者] をクリックすると、本画面が表示されます。



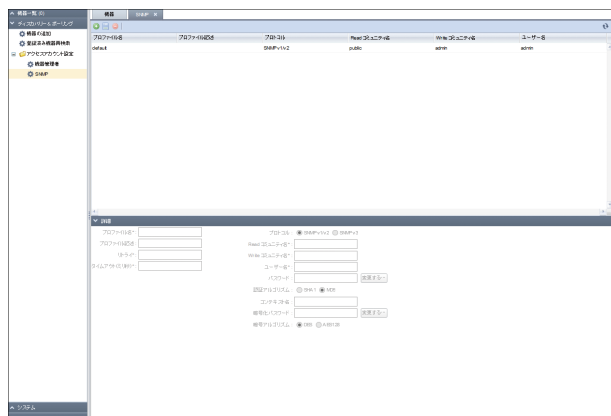
項目名	説明
プロファイル名	プロファイルの名前を入力します。文字数は 1～255 文字です。
プロファイル記述	プロファイルの説明を入力します。文字数は 0～511 文字です。
ユーザー名	ユーザー名は「admin」です。ユーザ名の変更はできません。
パスワード	[変更する...] ボタンをクリックし、変更するパスワードを入力します。文字数は 128 文字 (ASCII 文字) までです。

↓補足

- システムにはデフォルトアカウントとして「default」が登録されています。

SNMP 設定

SNMP プロトコルで使用するアクセスアカウントがリストエリアに表示されます。[ディスカバリー&ポーリング] - [アクセスアカウント設定] をクリックし、[SNMP] をクリックすると、本画面が表示されます。



5

項目名	説明
プロファイル名	プロファイルの名前を入力します。文字数は 1~255 文字です。
プロファイル記述	プロファイルの説明を入力します。文字数は 0~511 文字です。
リトライ	ディスカバリーのときに機器から応答がないときは、再通信を試みる回数を設定します。0~5 回まで指定できます。
タイムアウト (ミリ秒)	ディスカバリーのときに機器の応答を待つ時間を設定します。500~60000 ミリ秒まで指定できます。初期値は 2000 ミリ秒です。
プロトコル	機器と通信するために使用するプロトコルの種類を [SNMPv1/v2] または [SNMPv3] から選択します。プロトコルの種類によって、以下の設定項目が異なります。
Read コミュニティ名	Read コミュニティ名を指定します。文字数は 1~15 文字です。SNMPv1/v2 のときに設定します。
Write コミュニティ名	SNMP 通信で機器に情報を設定するとき使用する Write コミュニティ名を指定します。文字数は 1~15 文字です。SNMPv1/v2 のときに設定します。
ユーザー名	ユーザー名を入力します。文字数は 1~32 文字です。SNMPv3 のときに設定します。
パスワード	[変更する...] ボタンをクリックし、変更するパスワードを入力します。文字数は 128 文字 (ASCII 文字) までです。SNMPv3 のときに設定します。

項目名	説明
認証アルゴリズム	認証アルゴリズムを [SHA1] または [MD5] から選択します。SNMPv3 のときに設定します。
コンテキスト名	コンテキスト名を入力します。文字数は 0~256 文字です。SNMPv3 のときに設定します。
暗号化パスワード	[変更する...] ボタンをクリックし、変更する暗号パスワードを入力します。文字数は 32 文字 (ASCII 文字) までです。SNMPv3 のときに設定します。
暗号アルゴリズム	暗号アルゴリズムを [DES]、または [AES128] から選択します。SNMPv3 のときに設定します。

↓ 補足

- システムにはデフォルトアカウントとして「default」が登録されています。



アクセスアカウントを設定する

本機がデバイスにアクセスできるようにユーザアカウント情報を指定します。本機では複数のアカウントを設定でき、設定したアカウントはディスカバリーのときに指定したり、機器に関連付けることができます。



アカウントは、機器管理者、SNMP ごとに複数設定でき、指定した順番で機器にアクセスします。アクセスに成功したアカウントは機器プロファイルに保持され、以降の機器へのアクセスは、保持した機器アクセスアカウントが使用されます。

初期設定では、機器管理者、SNMP のそれぞれに、アクセスアカウントがひとつずつ用意されています。初期設定の SNMP アクセスアカウントは、編集することはできますが削除することはできません。

SNMP のアカウントを設定する

1. セクションエリアの [ディスカバリー&ポーリング] をクリックする。
2. セクションツリーの [アクセスアカウント設定] カテゴリから、[SNMP] をクリックする。
3. リストエリアの、 (追加) をクリックする。
4. 詳細エリアで、アカウントの [プロファイル名]、[プロファイル記述]、[リトライ]、[タイムアウト (ミリ秒)] を設定する。
5. [SNMPv1/v2] または [SNMPv3] のプロトコルを選択する。
6. 選択したプロトコルに沿った設定値を設定する。
設定値について詳しくは、P.52 「アクセスアカウント設定」を参照してください。
7. 設定が完了したら、 (保存) をクリックする。
8. [OK] をクリックする。


機器管理者のアカウントを設定する

1. セクションエリアの [ディスカバリー&ポーリング] をクリックする。
2. セクションツリーの [アクセスアカウント設定] カテゴリから、[機器管理者] をクリックする。
3. リストエリアの、 (追加) をクリックする。
4. 詳細エリアで、アカウントの [プロファイル名]、[プロファイル記述]、[ユーザー名]、[パスワード] を設定する。
5. 設定が完了したら、 (保存) をクリックする。

6. [OK] をクリックする。


アクセスアカウントを上書きする

検出した機器のアクセスアカウントを変更し、上書きする方法について説明します。

1. セクションエリアの [ディスカバリー&ポーリング] をクリックする。
2. セクションツリーの [アクセスアカウント設定] カテゴリから、目的のアカウントをクリックする。
3. リストエリアから変更するアカウントのプロファイル名を選択する。
4. 設定が完了したら、 (保存) をクリックする。
5. [OK] をクリックする。

5

アクセスアカウントを削除する

1. セクションエリアの [ディスカバリー&ポーリング] をクリックする。
2. セクションツリーの [アクセスアカウント設定] カテゴリから、目的のアカウントをクリックする。
3. リストエリアから削除するアカウントのプロファイル名を選択する。
4.  (削除) をクリックする。
5. 確認メッセージが表示されたら、[はい] をクリックする。
6. [OK] をクリックする。

補足


- アクセスアカウントの状態によって削除できないことがあります。詳しくは P.96 「トラブルシューティング」を参照してください。

アクセスプロファイルを指定する


本機が機器と通信するときは、通信方式に応じてそれぞれ定義されたアクセスプロファイル情報が必要です。

アクセスプロファイル情報を設定するには、P.55「アクセスアカウントを設定する」でSNMPのアカウントまたは機器管理者のアカウントのプロファイルを設定し、P.57「アクセスプロファイルを指定する」でSNMPのアカウントもしくは機器管理者のアカウントに、作成したアクセスプロファイルを指定してください。

SNMP

1. セクションエリアの [ディスカバリー&ポーリング] をクリックする。
2. セクションツリーの [機器の追加] で [ブロードキャスト] または [ネットワーク検索] タブをクリックする。
3. [アクセスアカウント設定] タブをクリックして、新規作成または編集を行ったアクセスアカウントを選択する。
4.  (保存) をクリックする。

機器管理者

1. [機器一覧] セクションからカテゴリ、グループをクリックし、機器一覧を表示する。
2. リストエリアから目的の機器を選択する。
3. 詳細エリアの [アクセスアカウント設定] タブで [機器管理者] をクリックする。
4. [プロファイル名] のドロップダウンメニューからプロファイルを選択する。
5.  (保存) をクリックする。

↓ 補足

- 機器管理者のアクセスアカウントが複数存在するときは、デフォルトの設定値を最も多い機器に使用されているものへと修正し、それ以外の機器に対して機器ごとにアクセスアカウントの指定を行ってください。

機器を検索する

ディスカバリーを使用してネットワークの機器を検索し、監視・管理対象の機器を検出します。

ディスカバリーを実行する前に、IP アドレス範囲やモデル名、ステータスなどの検索条件を設定します。

ネットワークのディスカバリーには、次の2つの方法があります。

ネットワーク検索

ネットワーク検索では指定された IP アドレス範囲を対象に、1つ1つの IP アドレスに SNMP を使用してアクセスを試みます。

ブロードキャスト


ローカルネットワークまたは指定したネットワークのすべての機器に SNMP ブロードキャストを送信することで機器を検出します。


5

★重要

- ディスカバリーは、Printer MIB v2 (RFC 3805)、Printer MIB (RFC 1759)、MIB-II (RFC 1213)、Host Resource MIB (RFC 2790) に対応している機器を検出できます。

検索する


1. セクションエリアの [ディスカバリー&ポーリング] をクリックする。
2. セクションツリーの [機器の追加] をクリックする。
3. [ブロードキャスト] タブか [ネットワーク検索] タブをクリックし、[ディスカバリー範囲] タブをクリックする。
 - リストエリアの、 (追加) をクリックする：
 1. 設定項目が半輝度から輝度になったことを確認します。
 2. 追加する機器の IP アドレス範囲やモデル名、ステータスなどの検索条件を入力します。
 - 検索範囲を指定した CSV ファイルをインポートする：

手順の詳細は P.30 「CSV ファイルを取り込む」を参照してください。
 - ルーター自動取得をする：
 1.  (ルーター自動取得) をクリックします。
 2. 検索ホップ数を選択し、アクセスアカウントを設定します。


[アクセスアカウント設定] タブで作成されたすべてのアクセスアカウントが選択できます。
 3. [取得開始] をクリックします。

自動検索がスタートします。



ボタンクリック前のディスカバリー範囲とボタンクリックによって追加されたディスカバリー範囲の重複チェックは行いません。

指定できる項目は、[ネットワーク検索] か [ブロードキャスト] かによって異なります。設定した検索範囲を CSV ファイルでエクスポートするときは、 (データを CSV ファイルへ書き出す) をクリックします。

4. 設定が完了したら、 (保存) をクリックする。

一覧にディスカバリー範囲が登録されます。ディスカバリーを即時実行するときは、 (即時実行) をクリックします。

↓ 補足


- リストエリアにある登録済みのディスカバリー範囲を選択すると、詳細エリアで設定を編集できます。編集した設定を保存するときは、 (保存) をクリックします。
- ディスカバリー範囲の削除は、削除するディスカバリー範囲を選択し、 (削除) をクリックします。
- ネットワークの機器は固定ではなく、常に追加されるなどの可能性を含んでいます。初期導入後のネットワークの機器を把握するためには、ディスカバリーを改めて実行する必要があります。
- 各タブの設定項目については、P.47 「機器の追加」を参照してください。


機器を再検索する

機器の IP アドレス変更などにより本機の管理する機器情報と実際の機器情報が不整合になる可能性を回避するために行います。

1. セクションエリアの [ディスカバリー&ポーリング] をクリックする。

2. セクションツリーの [登録済み機器再検索] をクリックする。


- リストエリアの、 (追加) をクリックする：
 1. 設定項目が半輝度から輝度になったことを確認します。
 2. 追加する機器の IP アドレス範囲やモデル名、ステータスなどの検索条件を入力します。
- 検索範囲を指定した CSV ファイルをインポートする：



手順の詳細は P.30 「CSV ファイルを取り込む」を参照してください。
- ルーター自動取得をする：
 1.  (ルーター自動取得) をクリックします。
 2. 検索ホップ数を選択し、アクセスアカウントを設定します。
[アクセスアカウント設定] タブで作成されたすべてのアクセスアカウントが選択できます。

3. [取得開始] をクリックします。

自動検索がスタートします。

ボタンクリック前のディスカバリー範囲とボタンクリックによって追加されたディスカバリー範囲の重複チェックは行いません。

指定できる項目は、[ネットワーク検索] か [ブロードキャスト] によって異なります。設定した検索範囲を CSV ファイルでエクスポートするときは、 (データを CSV ファイルへ書き出す) をクリックします。

3. 全て入力したら、 (保存) をクリックし、 (即時実行) をクリックする。機器が同一かどうか検索を行います。
4. [登録済み機器検索結果] ダイアログ画面で機器を確認し、[OK] をクリックする。


5


RS センターシステムに任意の機器を登録する


任意の機器を RS センターシステムに登録します。

登録するときは、[機器検索結果] タブに機器を追加してから行ってください。追加する手順は P.58 「検索する」を参照してください。

1. セクションエリアの [ディスカバリー&ポーリング] をクリックする。
2. [機器の追加] カテゴリの [機器検索結果] タブをクリックする。

リストエリアに機器が表示されていないときは、 (一覧更新) をクリックしてください。それでも表示されないときは、P.58 「検索する」の手順で機器を追加し直してください。
3. 機器情報が表示されたら、リストエリアの [機器表示名] から登録したい機器を右クリックし、[登録] をクリックする。

リストエリアの、 (@Remote) からでも登録できます。
4. [確認ビュー] ダイアログ画面で登録する機器が表示されていることを確認し、[OK] をクリックする。

RS センターシステムへ機器の登録が失敗したときは [結果] 欄に [失敗] と表示され、[理由] 欄に失敗した理由が表示されます。[理由] 欄の失敗理由を参照して適切な対応をしてください。
5. [登録結果] ダイアログ画面で [OK] をクリックする。
6. 機器一覧で、 (一覧更新) をクリックすると、登録した機器が機器一覧に表示される。

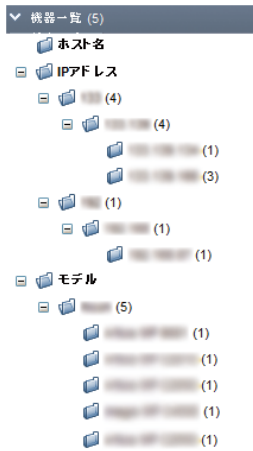
グループツリーが更新されないときは、セクションエリアで右クリックし一覧更新をしてください。

機器をグループで分類する

設置場所や使用者などのカテゴリー別に機器をグループ化することで、機器の監視や管理が容易になります。

自動グループ

RC Gate が機器を自動的に分類します。[ホスト名]、[IP アドレス]、[モデル名] のグループが用意されています。



機器を登録すると、カテゴリーごとに自動でグループが分類されます。

セクションツリーは、グループ（フォルダー）アイコン横の「+」「-」をクリックすると下層グループを展開、折りたたんで表示されます。

6. システム

ここでは、システムに表示される各項目について説明します。

システムの設定一覧

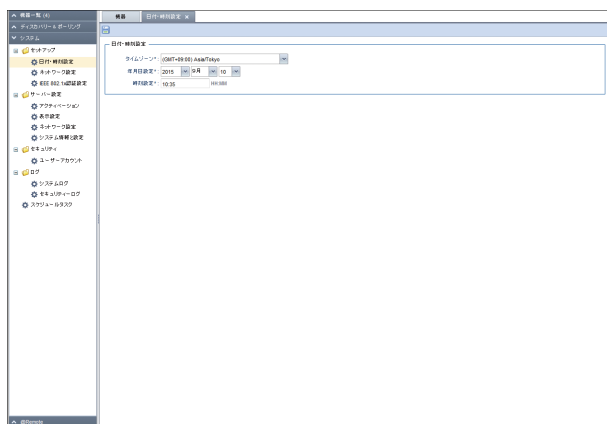
セットアップ

日付・時刻設定

本機の時計の確認や変更ができます。[システム] - [セットアップ] をクリックし、[日付・時刻設定] をクリックすると、本画面が表示されます。

★重要

- 日付と時刻は定期的に確認し、必要に応じて正しく調整してください。



<日付・時刻設定>

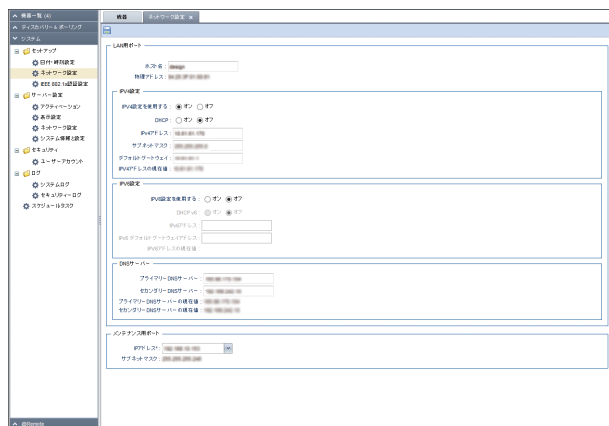
項目名	項目説明
タイムゾーン	本機を設置した場所の標準時間を、グリニッジ標準時からの差異で設定します。
年月日設定	本機を設置した場所の年月日を設定します。現在の日付を設定します。
時刻設定	本機を設置した場所の時刻を設定します。現在の時刻を設定します。

ネットワーク設定

本機のネットワーク設定の表示や変更ができます。[システム] - [セットアップ] をクリックし、[ネットワーク設定] をクリックすると、本画面が表示されます。

★重要

- ネットワークの設定を変更したあとは、再度ログインが必要です。設定変更を行ったアドレスとともに、新しい URL を Web ブラウザーで開いてください。
- DNS サーバー設定を変更したときは、再起動が必要です。(初回の設定時は再起動は不要です。)



< LAN 用ポート >

項目名	説明
ホスト名	本機のホスト名です。
物理アドレス	PC ポートの MAC アドレスです。

< LAN 用ポート - IPv4 設定 >

項目名	説明
IPv4 設定を使用する	IPv4 サーバーを使用するときは [オン] を設定します。
DHCP	DHCP サーバーを使用するときは [オン] を設定します。
IPv4 アドレス	本機の LAN ポートの IPv4 アドレスです。DHCP が [オフ] のときに入力できます。
サブネットマスク	本機の LAN ポートのサブネットマスクです。DHCP が [オフ] のときに入力できます。
デフォルトゲートウェイ	本機が使用するゲートウェイのアドレスです。DHCP が [オフ] のときに入力できます。
IPv4 アドレスの現在値	現在の IPv4 アドレスが表示されます。

< LAN 用ポート - IPv6 設定 >

項目名	説明
IPv6 設定を使用する	IPv6 サーバーを使用するときは [オン] を設定します。
DHCPv6	DHCPv6 サーバーを使用するときは [オン] を設定します。
IPv6 アドレス	本機の LAN ポートの IPv6 アドレスです。 DHCPv6 が [オフ] のときに入力できます。
IPv6 デフォルトゲートウェイアドレス	本機が使用するゲートウェイの IPv6 アドレスです。
IPv6 アドレスの現在値	現在の IPv6 アドレスが表示されます。

< LAN 用ポート - DNS サーバー >

項目名	説明
プライマリー DNS サーバー	本機が主に使用する DNS サーバーの IP アドレスです。 IP アドレスは、「x.x.x.x」形式（「x」は 0～255 の範囲内の整数）で入力します。IPv6 形式のアドレスも入力できます。
セカンダリー DNS サーバー	プライマリー DNS サーバーが使用できず、セカンダリー DNS サーバーを使用するとき、セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。IP アドレスは、「x.x.x.x」形式（「x」は 0～255 の範囲内の整数）で入力します。IPv6 形式のアドレスも入力できます。
プライマリー DNS サーバーの現在値	現在のプライマリー DNS サーバーアドレスが表示されます。
セカンダリー DNS サーバーの現在値	現在のセカンダリー DNS サーバーアドレスが表示されます。

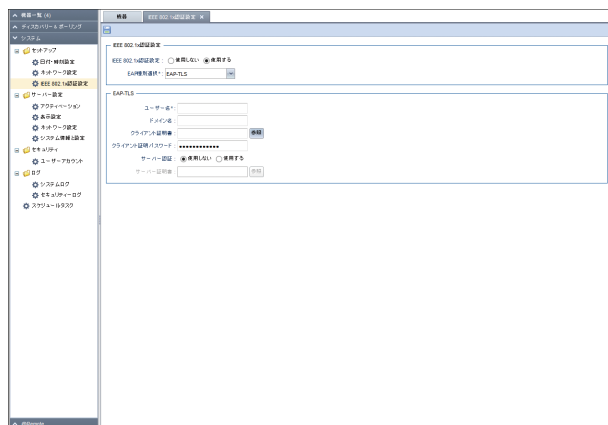
< メンテナンス用ポート >

導入設定のときだけ使用できます。

項目名	説明
IP アドレス	USB2.0 インターフェース（メンテナンスポート）の IP アドレスです。
サブネットマスク	USB2.0 インターフェース（メンテナンスポート）のサブネットマスクです。

IEEE 802.1x 認証設定

IEEE 802.1x のユーザー認証を使用するための設定ができます。[システム] - [セットアップ] をクリックし、[IEEE 802.1x 認証設定] をクリックすると、本画面が表示されます。



< IEEE 802.1x 認証設定 >

6

項目名	説明
IEEE 802.1x 認証設定	IEEE 802.1x 認証を使用するかどうかを設定します。
EAP 種別選択	認証の種別は以下の項目から選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • EAP-TLS • PEAP • EAP-TTLS

[EAP 種別選択] で選択した項目の画面が以下のように表示されます。

< EAP-TLS >

項目名	説明
ユーザー名	認証サーバーへのログインユーザー名です。文字数は 1～96 文字 (ASCII 文字) です。" (ダブルクォーテーション) と ' (シングルクォーテーション) は使用できません。
ドメイン名	認証サーバーへのドメイン名を設定します。文字数は 1～96 文字 (ASCII 文字) です。
クライアント証明書	[参照] ボタンをクリックして、証明書を選択します。
クライアント証明パスワード	証明書のパスワードを入力します。文字数は 128 文字 (ASCII 文字) までです。" (ダブルクォーテーション) と ' (シングルクォーテーション) は使用できません。
サーバー認証	ルート認証によるサーバー認証を使用するかどうかを設定します。

項目名	説明
サーバー証明書	サーバー認証を [使用する] にしたときだけ、表示されます。[参照] ボタンをクリックして、証明書をアップロードしてください。

< PEAP >

項目名	説明
ユーザー名	認証サーバーへのログインユーザー名です。文字数は 1～96 文字 (ASCII 文字) です。" (ダブルクォーテーション) と ' (シングルクォーテーション) は使用できません。
ドメイン名	認証サーバーへのドメイン名を設定します。文字数は 1～96 文字 (ASCII 文字) です。
トンネリング方式	トンネリングの方式を設定します。
トンネリングユーザー名	ユーザー名を設定します。文字数は 1～31 文字 (ASCII 文字) です。
トンネリングパスワード	証明書のパスワードを入力します。文字数は 128 文字 (ASCII 文字) までです。
サーバー認証	サーバー認証を使用するかどうかを設定します。
サーバー証明書	サーバー認証を [使用する] にしたときだけ、表示されます。[参照] ボタンをクリックして、証明書をアップロードしてください。

< EAP-TTLS >

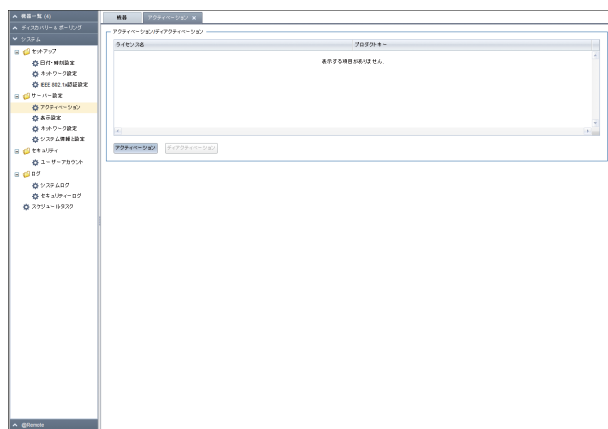
項目名	説明
ユーザー名	認証サーバーへのログインユーザー名です。文字数は 1～96 文字 (ASCII 文字) です。" (ダブルクォーテーション) と ' (シングルクォーテーション) は使用できません。
ドメイン名	認証サーバーへのドメイン名を設定します。文字数は 1～96 文字です。
トンネリング方式	トンネリング方式を MSCHAPv2 か MSCHAP、PAP、CHAP から選択します。
トンネリングユーザー名	ユーザー名を設定します。文字数は 1～31 文字 (ASCII 文字) です。
トンネリングパスワード	証明書のパスワードを入力します。文字数は 128 文字 (ASCII 文字) までです。
サーバー認証	サーバー認証を使用するかどうかを設定します。
サーバー証明書	サーバー認証を [使用する] にしたときだけ、表示されます。[参照] ボタンをクリックして、証明書をアップロードしてください。

全ての登録が終わったら、 (保存) をクリックしてください。

サーバー設定

アクティベーション

ユーザー別カウンター機能を使用するために、アクティベーションによるライセンス登録を行います。アクティベーションを行うと、アクティベーション済みライセンスが表示されます。[システム] - [サーバー設定] をクリックし [アクティベーション] をクリックすると、本画面が表示されます。



6

<アクティベーション/ディアクティベーション>

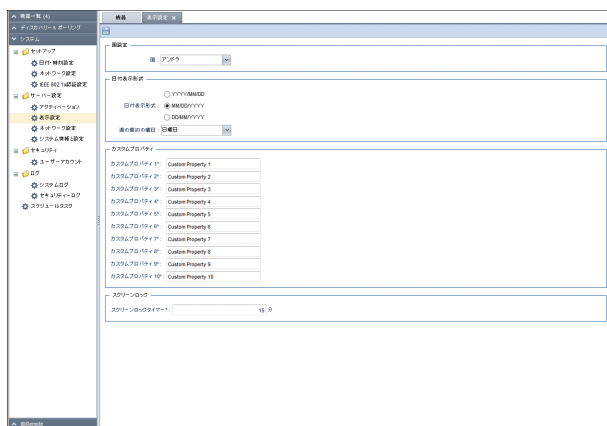
項目名	説明
アクティベーション済みライセンス (欄)	アクティベーション済みライセンスが [アクティベーション済みライセンス] 欄に表示されます。 アクティベーション可能なライセンスは 1 つだけです。
アクティベーション (ボタン)	ライセンスのアクティベーションを行います。 [アクティベーション済みライセンス] 欄が空欄のときは、使用できます。 [アクティベーション済みライセンス] 欄が埋まっているときは、使用できません。 以下の設定をし、[OK] をクリックしてください。 <ul style="list-style-type: none"> • プロダクトキー • 国 • 組織
ディアクティベーション (ボタン)	アクティベーション済みのライセンスを返却します。 [アクティベーション済みライセンス] 欄からアクティベーション済みのライセンスを選択して、[ディアクティベーション] ボタンをクリックすると、ディアクティベーション確認ダイアログが表示されます。

↓ 補足

- 設定項目に関連した機能の概要や操作の説明については、P.79「RC Gate をアクティベーションする」を参照してください。

表示設定

RC Gate で表示する日付のフォーマットなどを設定できます。[システム] - [サーバー設定] をクリックし [表示設定] をクリックすると、本画面が表示されます。



<国設定>

項目名	説明
国	[システム] セクションの [国設定] を設定します。初期値はアンドラです。

<日付表示形式>

項目名	説明
日付表示形式	日付表示のフォーマットを以下のいずれかから選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • YYYY/MM/DD • MM/DD/YYYY • DD/MM/YYYY
週の最初の曜日	設定でカレンダーを表示するときに、週の最初をどの曜日から表示するかを選択できます。

<カスタムプロパティ>

項目名	説明
カスタムプロパティ 1～10	カスタムプロパティの項目名を設定します。文字数は 1～255 文字までです。 カスタムプロパティの設定については、P.45「カスタムプロパティを設定する」を参照してください。

<スクリーンロック>

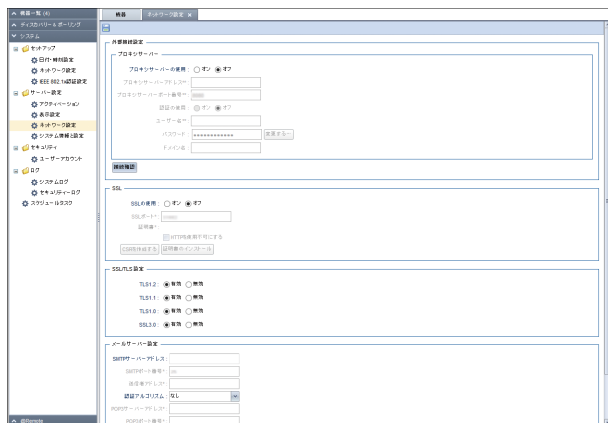
項目名	説明
スクリーンロックタイマー	スクリーンロックする時間を 1～60（分）で指定します。 スクリーンロックの解除方法は、ログイン画面で再度パスワードを入力すると解除できます。

ネットワーク設定

インターネットへアクセスするためのプロキシサーバーの設定を構成できます。[システム] - [サーバー設定] をクリックし [ネットワーク設定] をクリックすると、本画面が表示されます。

★重要


- SSL/TLS 設定を変更したときは、再起動が必要です。
- 機器と本機、ブラウザと本機が共通に使用可能なモードで使用できるように設定してください。



<外部接続設定 - プロキシサーバー>

項目名	説明
プロキシサーバーの使用	プロキシサーバーを使用するときは [オン] を選択します。

項目名	説明
プロキシサーバーアドレス	プロキシサーバーの IP アドレスを入力します。文字数は 1~255 文字です。
プロキシサーバーポート番号	プロキシサーバーのポート番号を入力します。番号は 1~65535 です。
認証の使用	プロキシサーバーにユーザー認証をさせるときは [オン] を選択します。
ユーザー名	プロキシサーバーの認証に使用するユーザー名を入力します。文字数は 1~256 文字です。[認証の使用] が [オン] のときだけ有効です。
パスワード	プロキシサーバーの認証に使用するパスワードを変更します。[変更する...] ボタンをクリックし、変更するパスワードを入力します。文字数は 0~256 文字です。[認証の使用] が [オン] のときだけ有効です。
ドメイン名	プロキシサーバーの NTLM 認証に使用するドメイン名を入力します。文字数は 0~256 文字です。[認証の使用] が [オン] のときだけ有効です。

全項目の設定が終わったら、 (保存) をクリックし、[接続確認] ボタンをクリックします。プロキシサーバーを使用して接続テストを実行します。


< SSL >

項目名	説明
SSL の使用	SSL を使用するときには [オン] を選択します。
SSL ポート	SSL のポートを入力します。番号は 1~65535 です。
証明書	機器証明書の作成、導入をします。 [CSR を作成する] ボタンで署名要求を入力し、[証明書のインストール] ボタンから証明書をアップロードします。 HTTP を無効にするときは [HTTP を使用不可にする] にチェックをつけてください。

< SSL/TLS 設定 >

項目名	説明
TLS 1.2	通信を [有効] か [無効] か設定します。
TLS 1.1	通信を [有効] か [無効] か設定します。
TLS 1.0	通信を [有効] か [無効] か設定します。
SSL 3.0	通信を [有効] か [無効] か設定します。

通信設定すべてを無効にはできません。また、機器と本機、ブラウザと本機が共通に使用可能なモードで使用できるように設定してください。

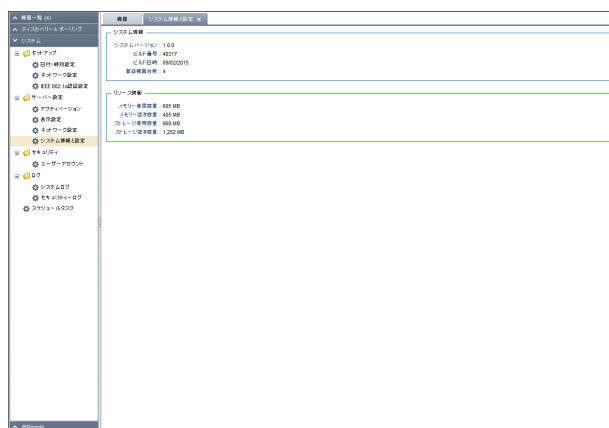
設定が終わったら、 (保存) をクリックしてください。設定を反映するために再起動します。

<メールサーバー設定>

項目名	説明
SMTP サーバーアドレス	SMTP サーバーの IP アドレスを入力します。文字数は 0～255 文字です。
SMTP ポート番号	SMTP サーバーのポート番号を入力します。番号は 1～65535 文字です。
送信者アドレス	送信者アドレスを指定します。文字数は 1～256 文字です。
認証アルゴリズム	認証アルゴリズムを選択します。
POP3 サーバーアドレス	POP3 サーバーの IP アドレスを入力します。文字数は 1～256 文字です。
POP3 ポート番号	POP3 のポート番号を入力します。番号は 1～65535 です。
アカウント名	POP3 か SMTP で使用するアカウント名を入力します。文字数は 1～256 文字です。
パスワード	[変更する...] ボタンをクリックし、POP3 か SMTP で使用するパスワードを入力します。文字数は 0～256 文字です。
テストメールアドレス	POP3 か SMTP で使用するメールアドレスを入力します。文字数は 1～256 文字です。[テスト] ボタンをクリックすると接続テストが実行されます。

システム情報と設定

本機の情報が確認できます。[システム] - [サーバー設定] をクリックし [システム情報と設定] をクリックすると、本画面が表示されます。



<システム情報>

項目名	説明
システムバージョン	システムのバージョンが確認できます。
ビルド番号	ビルド番号が確認できます。
ビルド日時	ビルド日時が確認できます。
登録機器台数	登録した台数が確認できます。

<リソース情報>

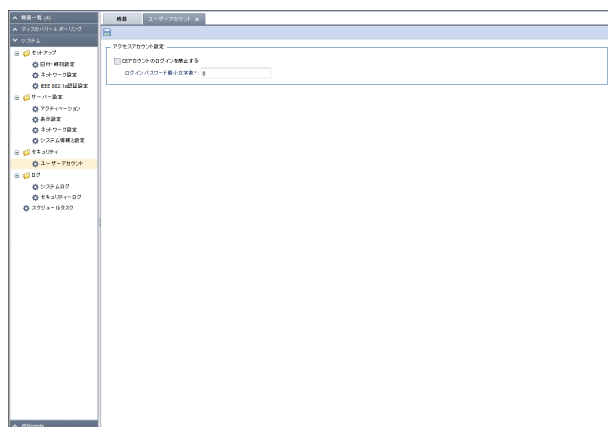
項目名	説明
メモリー使用容量	メモリー使用容量が確認できます。
メモリー空き容量	メモリー空き容量が確認できます。
ストレージ使用容量	ストレージ使用容量が確認できます。
ストレージ空き容量	ストレージ空き容量が確認できます。

拡張 SD カードがセットされているときは、拡張ストレージの使用容量と空き容量も表示されます。

セキュリティ


ユーザーアカウント

[システム] - [セキュリティ] をクリックし、[ユーザーアカウント] をクリックすると本画面が表示されます。



<アクセスアカウント設定>

項目名	説明
CE アカウントのログインを禁止する	カスタマーエンジニアが作業をするとき以外はチェックをいれた状態で使用してください。チェックをいれた状態でパスワードを忘れると、カスタマーエンジニアがパスワードをリセットすることができなくなります。
ログインパスワード最小文字数	ログインパスワード最小文字数の設定ができます。初期値は 8 文字です。

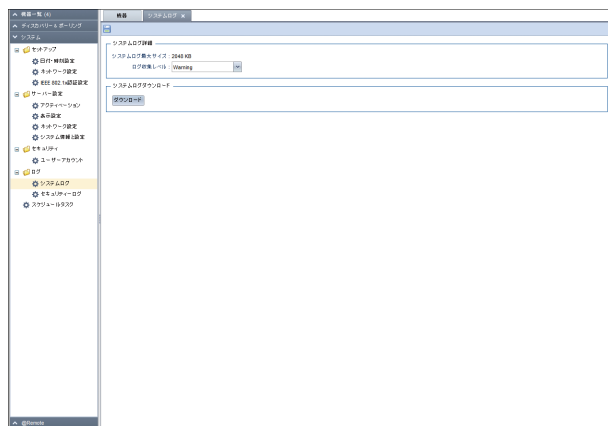
設定が終わったら  (保存) をクリックしてください。

ログ

RC Gate では、本システムのオペレーションを記録した、以下のログが確認できます。

システムログ

内部システム動作のログをダウンロードし、障害発生時のシステムログを解析できます。
[システム] - [ログ] をクリックし、[システムログ] をクリックすると本画面が表示されます。

**<システムログ詳細>**


項目名	説明
システムログ最大サイズ	システムログの最大サイズが表示されます。
ログ収集レベル	ログレベルを障害解析に最適なレベルに変更します。

<システムログダウンロード>

項目名	説明
ダウンロード (ボタン)	[ダウンロード] ボタンを押すと、システムログファイルをダウンロードできます。

セキュリティーログ

ログイン、ログアウト、システム更新等のセキュリティー関連情報を表示します。[システム] - [ログ] をクリックし、[セキュリティーログ] をクリックすると、本画面が表示されます。

 (一覧更新) をクリックすると、最新のログ情報を取得します。

★重要

- 以下の使用環境では、1日に約28件のログが記録されます。ログ領域には最大で5,824件の記録ができるため、約208日分のログ情報を保持できます (5,824 ÷ 28 = 208)。
 - 1日1回ログイン/ログアウトする。
 - 機器のポーリングが1時間に1回発生する。
- 未確認のログ情報が上書きされるのを防ぐため、最低でも104日(約15週)に1度はログ情報を確認することをお勧めします。上記よりも使用が多いときは、より頻繁にセキュリティーログを確認してください。
- セキュリティーログの件数が最大保持件数を超えると、古いログ情報は確認の有無にかかわらず上書きされます。
- ログを確認するときは、管理者自身の直近のログイン記録が表示されていることを必ず確認してください。直近のログイン記録が確認できないときは、サービス実施店にご連絡ください。
- セキュリティーログがすぐに保存されないときは、ダウンロード処理に時間がかかっていることがあります。しばらくお待ちください。
- セキュリティーログが表示されない、または保存できないときは、使用しているブラウザを変更してお試しください。ブラウザを変更しても改善されないときは、RC Gate 本体の電源を切った上でサービス実施店へご連絡ください。

項目名	説明
処理内容	ログの発生要因 <ul style="list-style-type: none"> • 電源 ON : "Logging start" • 電源 OFF : "Logging end" • ログイン : "Login" • ログアウト : "Logout" • ロックアウト : "Lockout" • アカウント更新 : "Update account (更新されたユーザー名) " *2 • システムログ取得 : "Get system log" • セキュリティーログ取得 : "Get security log" • 時刻変更 : "Update system clock (更新後の時刻) " *2 • システムファームウェア更新 : "Update system firmware (ファームウェアバージョン) " *2 • システムファームウェア正当性確認 : "Validate system firmware (ファームウェアバージョン) " *2 • 証明書更新 : "Update system @Remote certificate" • SSL 通信異常発生 : "SSL communication error" • 機器認証情報更新 : "Update device auth. Key (更新後の値) " *2 • 機器暗号鍵長変更 : "Change encryption length (更新後の値) " *2 • SSL/TLS 設定変更 : "Change SSL Protocol (有効 SSL プロトコル) " *2
セキュリティーログ詳細	処理内容の詳細を表示します。
結果	<ul style="list-style-type: none"> • 成功のとき : "Succeeded" • 失敗のとき : "Failed"

*1 "System"は、RC Gate 本体です。

*2 "(****)"の内容は、[セキュリティーログ詳細] に表示されます。

スケジュールタスク

スケジュールタスクログが確認できます。[システム] - [スケジュールタスク] をクリックすると本画面が表示されます。

名前	説明	種別	有効	スケジュールタイプ	更新	開始	更新
Example Task 1	Example description 1	Discovery	有効	即時実行	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00
Example Task 2	Example description 2	Status Polling	有効	一度のみ	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00
Example Task 3	Example description 3	Discovery	有効	毎日	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00
Example Task 4	Example description 4	Status Polling	有効	毎日	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00
Example Task 5	Example description 5	Discovery	有効	毎日	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00
Example Task 6	Example description 6	Status Polling	有効	毎日	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00
Example Task 7	Example description 7	Discovery	有効	毎日	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00
Example Task 8	Example description 8	Status Polling	有効	毎日	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00
Example Task 9	Example description 9	Discovery	有効	毎日	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00
Example Task 10	Example description 10	Status Polling	有効	毎日	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00	2023-10-27 10:00

<タスク一覧の表示項目>

項目	内容
名前	タスク登録時に入力したタスク名です。
説明	タスク登録時に入力したタスクの説明です。
種別	タスクの種類が表示されます。 例：ディスカバリー、ステータスポーリング
有効	スケジュールタスクの有効か無効が表示されます。
スケジュールタイプ	スケジュールの設定内容が表示されます。 例：即時実行、一度のみ、定期、繰り返し、毎日
定期	スケジュールタイプが「定期」のときは、定期時間が表示されます。
開始	タスクの開始日時が表示されます。
更新	タスクを作成または編集した日時が表示されます。
ユーザー	タスクを作成または編集したユーザー名が表示されます。

↓ 補足

- スケジュールタスク一覧では、スケジュールの変更やタスクの削除はできません。

RC Gate をアクティベーションする

RC Gate から直接インターネットに接続してアクティベーションします。本機能は、ユーザー別カウンター機能を使用するときに行ってください。インターネットへの接続にプロキシサーバーの設定が必要なときは、[システム] セクションの [サーバー設定] カテゴリから [ネットワーク設定] を選択し、[プロキシサーバー] でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバー設定の詳細は P.70 「ネットワーク設定」を参照してください。また、DNS サーバーを使用するときは正しく設定をしないと必ずアクティベーションに失敗します。DNS サーバー設定の詳細は P.64 「ネットワーク設定」を参照してください。

↓ 補足

- ネットワークインターフェースを交換する前にディアクティベーションが実施できなかったときは、販売店またはサービス実施店まで連絡してください。

アクティベーションする

RC Gate から直接インターネットに接続してアクティベーションします。

1. [システム] セクションをクリックする。
2. [サーバー設定] の [アクティベーション] をクリックする。
3. [アクティベーション] ボタンをクリックする。
4. プロダクトキーを入力する。
購入したプロダクトキーを入力します。
5. [国] で使用する国を選択する。
選択されないままでもアクティベーションは実行されます。
6. [組織] で会社名または組織名を入力する。
文字数は 0～250 文字です。入力されないままでもアクティベーションは実行されません。
7. [OK] をクリックする。

ディアクティベーションする

RC Gate をアンインストールするときは、購入したプロダクトキーをもう一度使用できるようにするために、必ずディアクティベーションを実行します。

★重要

- ディアクティベーションを実行すると、ユーザー別カウンター機能が使用できなくなります。

RC Gate から直接インターネットに接続し、ディアクティベーションします。インターネットへの接続にプロキシサーバーの設定が必要なときは、[システム] セクションの [サーバー設定] カテゴリーから [ネットワーク設定] を選択し、[プロキシサーバー] でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバー設定の詳細は P.70「ネットワーク設定」を参照してください。

1. [システム] セクションをクリックする。
2. [サーバー設定] の [アクティベーション] をクリックする。
3. ライセンスを選択して、[ディアクティベーション] ボタンをクリックする。
4. [OK] をクリックする。

ディアクティベーションが実行され、結果ダイアログが表示されます。

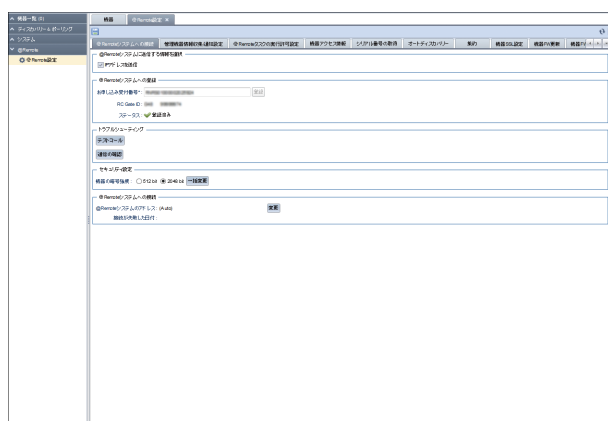
7. @Remote

ここでは、@Remote に表示される各項目について説明します。

@Remote の設定項目一覧

@Remote システムへの接続

コネクター設定ができます。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [@Remote システムへの接続] タブをクリックすると本画面が表示されます。



<@Remote システムに送信する情報を選択>

項目	説明
IP アドレスを送信	RS センターシステムへ IP アドレスを送信するときはチェックします。

<@Remote システムへの登録>

項目	説明
お申し込み受付番号	RS センターシステムに接続するためのお申し込み受付番号を入力します。登録が完了しているときは、入力する必要はありません。
RC Gate ID	RC Gate ID が表示されます。
ステータス	現在の RS センターシステムへのサーバー登録のステータスが表示されます。

<トラブルシューティング>

項目	説明
テストコール (ボタン)	本機から RS センターシステムへテストコールを行います。
通信の確認 (ボタン)	RS センターシステムへの接続を試みます。センターに接続できないときはその理由の詳細が表示されます。

<セキュリティ設定>

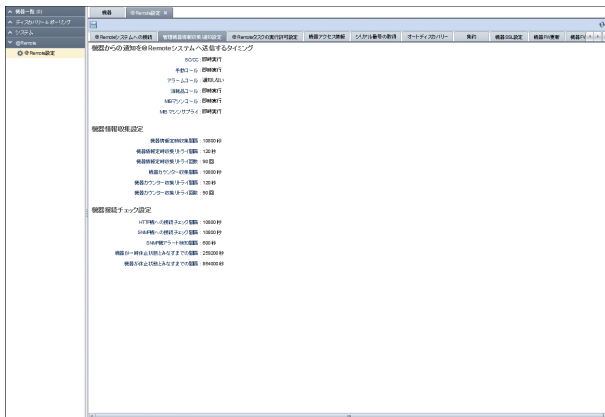
項目	説明
機器の暗号強度	[一括変更] ボタンをクリックするとすべての機器の暗号の長さが変更されます。

<@Remote システムへの接続>

項目	説明
@Remote システムのアドレス	RS センターシステムのアドレスが表示されます。 [変更] ボタンを押すと、[@Remote システムのアドレス] 画面が表示され、RS センターシステムのアドレスを変更できます。
接続が失敗した日付	RS センターシステムに接続して接続できなかった日付を表示します。

管理機器情報収集/通知設定

ネットワークに接続されている機器の通信状況の確認ができます。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [管理機器情報収集/通知設定] タブをクリックすると本画面が表示されます。



< 機器からの通知を@Remote システムへ送信するタイミング >

項目	説明
SC/CC	サービスコール、カスタマーコールの通知タイミングが表示されます。
手動コール	手動コールの通知タイミングが表示されます。
アラームコール	アラームコールの通知タイミングが表示されます。
消耗品コール	消耗品コールの通知タイミングが表示されます。
MIB マシンコール	MIB からの機器コールの通知タイミングが表示されます。
MIB マシンサプライ	MIB からの消耗品コールの通知タイミングが表示されます。

< 機器情報収集設定 >

項目	説明
機器情報定時収集間隔	機器の情報を取得する間隔が表示されます。
機器情報定時収集リトライ間隔	機器の情報が正常に取得できなかったときに、再試行する間隔が表示されます。
機器情報定時収集リトライ回数	機器の情報が正常に取得できなかったときに、再試行する回数が表示されます。
機器カウンター収集間隔	機器のカウンターデータを取得する間隔が表示されます。
機器カウンター収集リトライ間隔	機器のカウンターデータが正常に取得できなかったときに、再試行する間隔が表示されます。
機器カウンター収集リトライ回数	機器のカウンターデータが正常に取得できなかったときに、再試行する回数が表示されます。

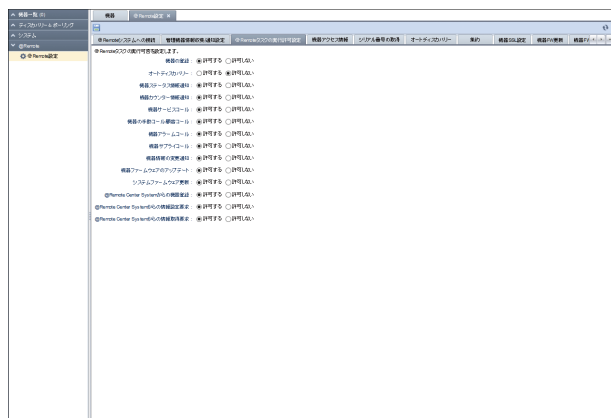
< 機器接続チェック設定 >

項目	説明
HTTP 機への接続チェック間隔	HTTP プロトコルで情報を取得する HTTPS 対応機が接続されているかチェックする間隔が表示されます。
SNMP 機への接続チェック間隔	SNMP プロトコルで情報を取得する SNMP 対応機が接続されているかチェックする間隔が表示されます。
SNMP 機アラート検知間隔	SNMP プロトコルで情報を取得する SNMP 対応機が発信する警告の時間間隔が表示されます。
機器が一時休止状態とみなすまでの間隔	ネットワークの機器を見失ってから、停止していると判断するまでの時間が表示されます。

項目	説明
機器が休止状態とみなすまでの間隔	ネットワークの機器を見失ってから、長期間停止していると判断するまでの時間が表示されます。

@Remote タスクの実行許可設定

@Remote タスクの権限が設定できます。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [@Remote タスクの実行許可設定] タブをクリックすると本画面が表示されます。



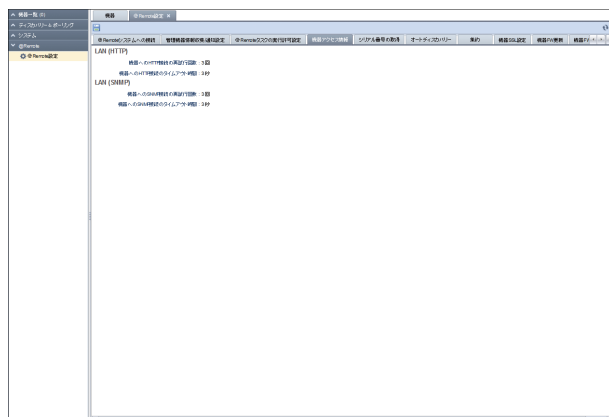
7

項目	説明
機器の登録	許可する 許可しない
オートディスカバリー	許可する 許可しない
機器ステータス情報通知	許可する 許可しない
機器カウンター情報通知	許可する 許可しない
機器サービスコール	許可する 許可しない
機器の手動コール/顧客コール	許可する 許可しない
機器アラームコール	許可する 許可しない
機器サプライコール	許可する 許可しない
機器情報の変更通知	許可する 許可しない

項目	説明
機器ファームウェアのアップデート	許可する 許可しない
システムファームウェア更新	許可する 許可しない
@Remote Center System からの機器登録	許可する 許可しない
@Remote Center System からの情報設定要求	許可する 許可しない
@Remote Center System からの情報取得要求	許可する 許可しない

機器アクセス情報

機器のアクセス設定と接続状況を確認できます。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [機器アクセス情報] タブをクリックすると本画面が表示されます。



< LAN (HTTP) >

項目	説明
機器への HTTP 接続の再試行回数	再試行回数が表示されます。
機器への HTTP 接続のタイムアウト時間	タイムアウトした時間が表示されます。

< LAN (SNMP) >

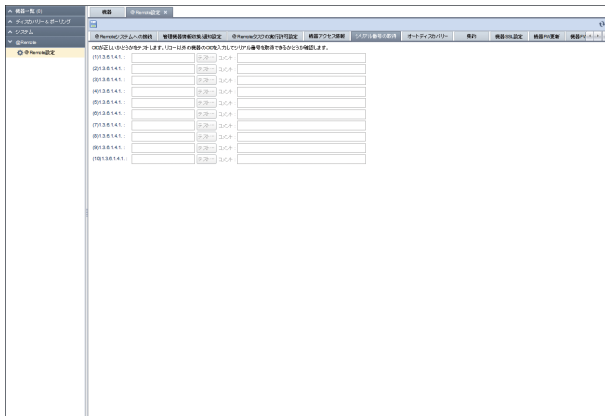
項目	説明
機器への SNMP 接続の再試行回数	再試行回数が表示されます。
機器への SNMP 接続のタイムアウト時間	タイムアウトした時間が表示されます。

シリアル番号の取得

リコー以外の機器のシリアル番号を取得するための設定ができます。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [シリアル番号の取得] タブをクリックすると本画面が表示されます。

★重要

- この機能を実行する権限がありません。



7

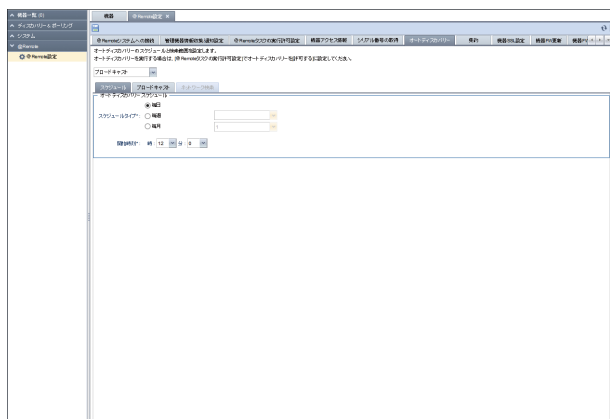
項目	説明
OID (1~10)	この機能を実行する権限がありません。
コメント	この機能を実行する権限がありません。

オートディスカバリー

指定されたスケジュールでネットワークの機器情報を収集し、RS センターシステムに送ります。オートディスカバリーを実行するときは、[@Remote タスクの実行許可設定] タブでオートディスカバリーを [許可する] に設定してください。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [オートディスカバリー] タブをクリックすると本画面が表示されます。

ブロードキャスト

ドロップダウンメニューでブロードキャストを選びます。



<スケジュール>タブ

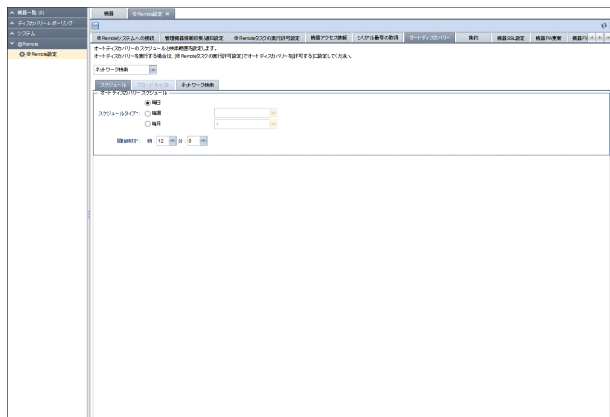
項目	説明
スケジュールタイプ	スケジュールタイプは以下の項目から選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 毎日 • 毎週 • 毎月
開始時刻	開始時刻を設定できます。 時：0～23 分：00～59

<ブロードキャスト>タブ

項目	説明
[ディスカバリー範囲 (ブロードキャスト)] タブ	ディスカバリー範囲 (ブロードキャスト) ではローカルセグメント、サブネットと IPv6 マルチキャスト (リンクローカル) の種別から以下の項目が入力できます。 <ul style="list-style-type: none"> • サブネット • サブネットマスク • レンジ名 • コメント
[アクセスアカウント設定] タブ	ディスカバリー範囲内にある機器と通信するのに最適なアクセスアカウントを選択します。使用するアカウントを、[未設定アカウント] リストから [▲] [▼] ボタンまたはドラッグアンドドロップで [設定済みアカウント] リストに移動します。

ネットワーク検索

ドロップダウンメニューでネットワーク検索を選びます。



<スケジュール>タブ

項目	説明
スケジュールタイプ	スケジュールタイプは以下の項目から選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 毎日 • 毎週 • 毎月
開始時刻	開始時刻を設定できます。 時：0～23 分：00～59

<ネットワーク検索>タブ

項目	説明
[ディスカバリー範囲（ネットワーク検索）] タブ	ディスカバリー範囲（ネットワーク検索）では以下の項目が入力できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 対象/除外 • 種別 <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 • IP アドレス • IP 範囲指定 • IPv6 アドレス • ホスト名 • 開始 • 終了 • サブネットマスク • レンジ名 • コメント

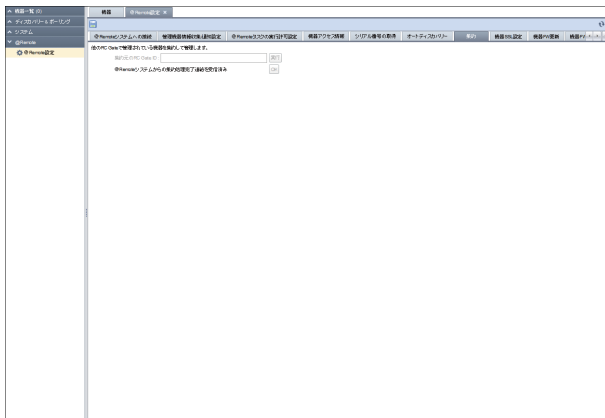
項目	説明
[アクセスアカウント設定] タブ	ディスカバリー範囲内にある機器と通信するのに最適なアクセスアカウントを選択します。使用するアカウントを、[未設定アカウント] リストから [▲] [▼] ボタンまたはドラッグアンドドロップで [設定済みアカウント] リストに移動します。

集約

RC Gate ID を入力することで他の RC Gate で管理されている機器を集約して管理します。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [集約] タブをクリックすると本画面が表示されます。

★重要

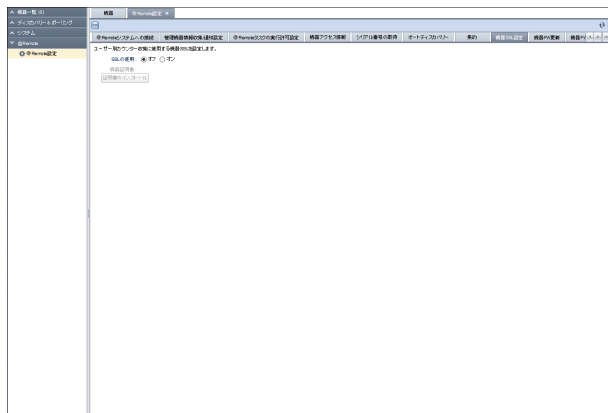
- この機能を実行する権限がありません。



項目	説明
集約元の RC Gate ID	この機能を実行する権限がありません。

機器 SSL 設定

ユーザー別カウンターの収集に SSL 通信を使用するための証明書のインストールをします。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [機器 SSL 設定] タブをクリックすると本画面が表示されます。



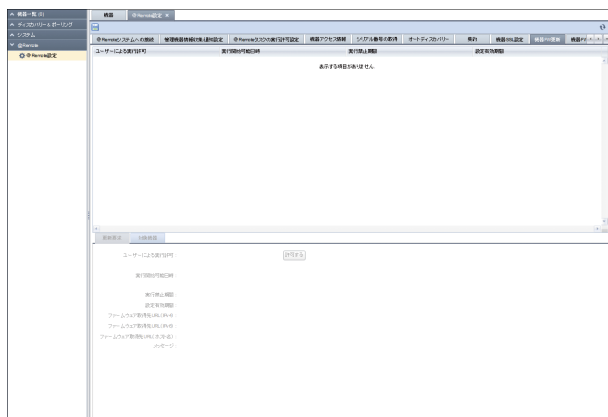
項目	説明
SSLの使用	SSLを使用するときは「オン」を選択します。
機器証明書	サーバー上にインストールされている、HTTPS対応機のクライアント証明書を署名検証する為の証明機関の公開鍵証明書を表示します。 [証明書のインストール] ボタンをクリックして、証明書をインポートしてください。

7

インストールする証明書の公開鍵が、十分な強度の暗号方式、鍵長であることを確認してください。

機器 FW 更新

機器のファームウェアの更新や、更新スケジュールの確認ができます。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [機器 FW 更新] タブをクリックすると本画面が表示されます。



<更新要求>タブ

項目	説明
ユーザーによる実行許可	管理者の確認が [必要] か [不要] かを表示します。確認が [必要] のとき、また機器のファームウェア更新を許可するときは [許可する] ボタンをクリックしてください。
実行開始可能日時	機器のファームウェアの更新が開始される日時を表示します。
実行禁止期間	ファームウェアの更新を禁止したい日時を表示します。
設定有効期間	機器のファームウェアを更新できる有効期間を表示します。この期間内に更新が完了しないときは、更新失敗とみなされます。
ファームウェア取得先 URL (IPv4)	機器のファームウェアを取得する IPv4 の URL 先を表示します。
ファームウェア取得先 URL (IPv6)	機器のファームウェアを取得する IPv6 の URL 先を表示します。
ファームウェア取得先 URL (ホスト名)	機器のファームウェアを取得するホスト名の URL 先を表示します。
メッセージ	RS センターシステムからのメッセージを表示します。

<対象機器>タブ

項目	説明
対象機器一覧	対象機器一覧が表示されます。 表示項目は以下の通りです。 • 機番

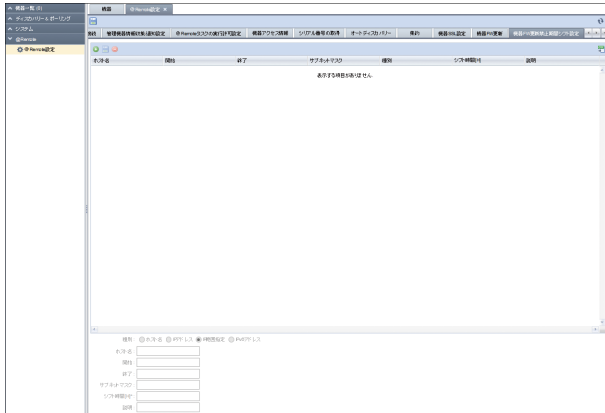
機器ファームウェア更新の手順の詳細は P.94 「機器ファームウェアを更新する」を参照してください。

機器 FW 更新禁止期間シフト設定

機器ファームウェア更新禁止期間をずらす設定ができます。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [機器 FW 更新 禁止期間シフト設定] タブをクリックすると本画面が表示されます。

↓ 補足

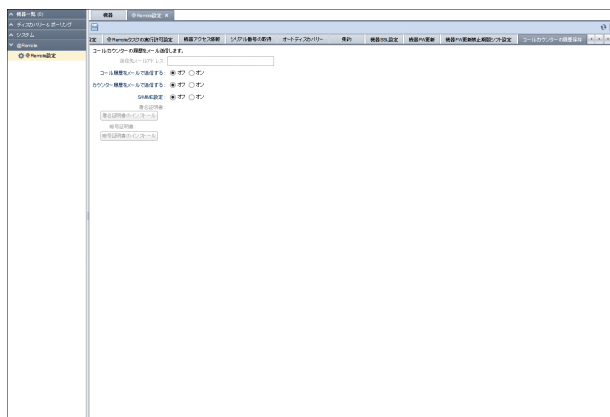
- 最大 256 個設定できます。



項目	説明
種別	指定する値の種類を、[ホスト名]、[IP アドレス]、[IP 範囲指定]、または [IPv6 アドレス] から選択します。
ホスト名	種別でホスト名を選択したときにだけ設定します。文字数は 1～255 文字です。
開始	ディスカバリーの対象となる IP アドレス、IPv6 アドレス、または IP アドレス範囲の開始アドレスを入力します。
終了	IP アドレス範囲の終了アドレスを入力します。
サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。設定できるのは IPv4 だけです。
シフト時間 [H]	各拠点の時差を設定できます。シフト時間を、-12 から 12 までの間の整数で指定します。
説明	シフト設定の説明を 61 文字以内で記載します。

コール/カウンターの履歴保存

コールメール通知、カウンターメール通知の情報をメールで送信するための設定ができます。[@Remote] - [@Remote 設定] をクリックし [コール/カウンターの履歴保存] タブをクリックすると本画面が表示されます。



項目	説明
送信先メールアドレス	コールメール通知、カウンターメール通知の送信先アドレスを入力します。文字数は0~512文字です。
コール履歴をメールで送信する	コール履歴をメールで送信するときは [オン] を選択します。
カウンター履歴をメールで送信する	カウンター履歴をメールで送信するときは [オン] を選択します。
S/MIME 設定	メール通知に S/MIME 設定を適用するかどうかを設定します。 [S/MIME 設定] を [オフ] にすると、盗聴、改ざんが行なわれる可能性が高くなります。
署名証明書	インストールされている、本機の署名用証明書を表示します。[署名証明書のインストール] ボタンを押すと、署名証明書をアップロードできます。
暗号証明書	インストールされている、受信者の暗号公開鍵証明書を表示します。[暗号証明書のインストール] ボタンを押すと、暗号証明書をアップロードできます。

インストールする証明書の公開鍵が、十分な強度の暗号方式、鍵長であることを確認してください。

ファームウェアを確認する

機器ファームウェアを更新する

RS センターシステムから通知が届いたとき、本機が管理している機器のファームウェアを更新します。更新後、RS センターシステムに機器ファームウェアの更新結果を通知します。機器ファームウェアの項目の詳細は、P.90「機器 FW 更新」を参照してください。機器ファームウェア更新には、ユーザー確認が必要、ユーザー確認が不要の2つのパターンがあります。

- ユーザー確認が必要なとき：[@Remote] - [@Remote 設定] の [機器 FW 更新] で [許可する] をクリックすると更新を許可し、本機が実行開始日時に自動で機器ファームウェア更新を実行します。
- ユーザー確認が不要のとき：RS センターシステムが設定したタイミングで、ユーザーの許可なく本機が自動で機器ファームウェア更新を実行します。

システムファームウェアを更新する

RS センターシステムからシステムファームウェア更新要求を受けてから更新します。

★重要

- 機器ファームウェア更新が実行中のときは本機のシステムファームウェア更新要求を受けても更新されません。
- [@Remote タスクの実行許可設定] の [システムファームウェアのアップデート] が [許可する] に設定されていることを確認してください。

システムファームウェア更新は以下の手順で行われます。

1. システムが RS センターシステムから機器ファームウェア更新要求を受信する。
2. システムファームウェアをダウンロードする。
ほかの機能が実行中のとき、その処理の完了後にシステムファームウェアのダウンロードを開始します。
3. 本機が自身のシステムファームウェアの正当性を確認する。
4. 本機が自身のシステムファームウェア更新をする。
5. 本機が再起動される。



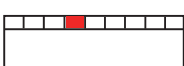
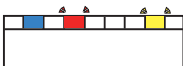
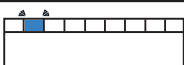

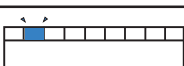

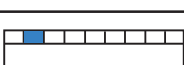
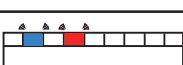



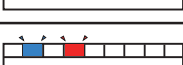
更新後、本機が自動で RS センターシステムにシステムファームウェア更新結果を通知します。

8. 付録

こんなときには

RC Gate の LED 表示について

本機の状態によって LED 表示パターンが異なります。詳細は、以下の表を参照してください。

LED パターン	状態	LED パターン	状態
	電源OFF		IPアドレスの未割当
	電源ON		IEEE 802.1X 認証失敗
	アプリケーション起動中		各エラー状態から復帰中
	RS センターシステムへの登録が完了していない		システムファームウェアアップデート中
	RS センターシステムへの登録が完了し、通信が正常に行われている		規定回数再起動してもシステム異常が復旧できない
	通信エラーが発生している		システム再起動中
	ケーブルが接続されていない、またはケーブルが断線している		システム終了中

DJH006

* ◀ ▶ : 1 秒間隔の点滅

* ▲ ▼ : 0.2 秒間隔の点滅

トラブルシューティング

問題	原因と対策
ネットワークの機器が検出されない。	<ul style="list-style-type: none"> ほかのネットワークの機器を検索するように指定しても、ネットワークのルーターの設定により検索できないことがあります。 ディスカバリー範囲を確認してください。詳しくは、P.58「機器を検索する」を参照してください。
リコー製以外の機器が機器一覧に表示されているが、取得できない機器情報がある。	ディスカバリーは PrinterMIB をサポートしている機器を検出します。他社の機器も監視対象になりますが、機器から取得できる情報はリコー製の機器より少なくなります。
SNMP アクセスアカウントの監視プロトコルを SNMPv3 に設定したら、機器が検出されなくなった。	機器側の SNMPv3 の設定を有効にしてください。リコー製の機器であれば、Web Image Monitor から設定できます。詳しくは機器に付属の使用説明書を参照してください。
アクセスアカウントが削除できない。	<p>アクセスアカウントが次のいずれかの状態に該当するときは削除できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> オートディスカバリータスクのアクセスアカウントに割り当てられている。 ディスカバリータスクのアクセスアカウントに割り当てられている。 機器リストに表示されている各機器のプロパティでアクセスアカウントに割り当てられている <p>アクセスアカウントを削除するにはこれらの割り当てを解除してください。</p>

エラーメッセージが表示されたときは

メッセージ	発生事由と対処方法
ユーザー名またはパスワードが正しくありません。	ユーザー名は admin です。ユーザー名とパスワードを確認し、もう一度入力してください。
この機能を実行する権限がありません。	3 回以上連続してパスワードを間違ったときにこのエラーが発生します。発生すると、パスワードが合っても 1 分間ログインできません。時間をおいてログインし直してください。
障害が発生しています。	SC コード、詳細コード、障害発生日時、センター通知、サービス実施店またはサービス実施店連絡先が表示されます。 SC コードと詳細コードのコードについては、P.99「エラーコード」を参照してください。
現在タスクを実行中のため、シャットダウンを行うことはできません。	時間をおいてシャットダウンしてください。

メッセージ	発生事由と対処方法
システムソフトウェアにエラーが発生しました。	シャットダウン中にシステムソフトウェアにエラーが発生しました。サービス実施店に連絡してください。
システムハードウェアエラーが発生しました。	シャットダウン中にシステムハードウェアエラーが発生しました。サービス実施店に連絡してください。
処理中のためリブートできませんでした。	時間をおいて再起動してください。
パスワードに使用できない文字が含まれています。	パスワードに使用できない文字が含まれています。もう一度確認して入力してください。
サポート範囲 (xxxx) を超えています。	サポート対象が上限を超えてしまうため、これ以上は機器を登録できません。選択する機器の台数を減らして再度登録してください。
IPv4 アドレスが設定されていません。 必須入力フィールドが空白です。	ブロードキャストタブでサブネットを選択した状態で、サブネットまたはサブネットマスクが空欄です。サブネットまたはサブネットマスクに適切な値を入力してください。
ネットワークからのディスカバリー実行範囲情報を取得できませんでした。	ブロードキャストタブでサブネットを選択した状態で、サブネットまたはサブネットマスクの値が不正です。サブネットまたはサブネットマスクに適切な値を入力してください。
入力パラメータが不正です。	正しいパラメーターを設定してください。
IPv4 アドレスが設定されていません。	IPv4 アドレスが設定されていません。設定してください。
IPv6 アドレスが設定されていません。	IPv6 アドレスが設定されていません。設定してください。
必須入力フィールドが空白です。	必須項目が設定されていません。設定してください。
IPv4 アドレスが設定されていません。 IPv6 アドレスが設定されていません。	プライマリー DNS サーバーまたはセカンダリー DNS サーバーが設定されていません。設定してください。
禁則文字が含まれています。	使用できない文字が含まれています。もう一度確認して入力してください。
プロダクトキーが不正です。	プロダクトキーが正しくありません。もう一度確認して入力してください。正しいプロダクトキーを入力してもエラーが発生するときはサービス実施店に連絡してください。
無効のメールアドレス	使用できないメールアドレスです。もう一度確認して入力してください。
リソース情報を取得できませんでした。	サービス実施店に連絡してください。

メッセージ	発生事由と対処方法
パスワード文字数が不正です。	パスワードの最大文字数は 128 文字までです。
設定の保存に失敗しました。	サービス実施店に連絡してください。
セキュリティ設定に失敗しました。 (エラーコード)	一部の機器で設定の変更ができませんでした。 エラーコードが表示されたら、エラーコードを確認しサービス実施店に連絡してください。
一部の機器での設定の変更に失敗しました。	一部の機器で設定の変更ができませんでした。 エラーコードが表示されたら、エラーコードを確認しサービス実施店に連絡してください。
未対応の機器があります。	一部の機器で設定の変更ができませんでした。 エラーコードが表示されたら、エラーコードを確認しサービス実施店に連絡してください。
時間をおいて再度実行してください。	設定に時間が掛っています。時間をおいて確認してください。
接続に失敗しました。 (エラーコード)	接続できませんでした。エラーコードを確認し、サービス実施店にご連絡ください。
予期せぬエラーが発生しました。	サービス実施店に連絡してください。

↓ 補足

- 可変する部分は X で表現しています。

エラーメッセージに示された障害が継続するとき

エラーメッセージに示された障害が継続するときは、サービス実施店にお問い合わせください。

事業所の移転、機器の移動等

以下のときは、事前に RS センターシステム側 DB への登録手続きが必要です。サービス実施店までお問い合わせください。

- 事業所の移転（本機の移動）
- 機器の移動（オートディスカバリーを除く）
- 機器の新設（オートディスカバリーを除く）
- 機器の削除（オートディスカバリーを除く）

故障・保守サービスに関するお問い合わせ

故障・保守サービスについては、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。修理範囲（サービスの内容）、修理費用の目安、修理期間、手続きなどをご要望に応じて説明いたします。

<http://www.ricoh.co.jp/support/repair/index.html>

本機を返却するとき

運用を終了するときは、お客様の情報を守るために本機を回収し、本機に登録された情報を削除します。サービス実施店にご連絡ください。

エラーコード

エラーの原因とその対処について説明します。

エラーコード	原因	対処
004	機器がサポートされていません。	対象の機器が機能をサポートしていません。機器を確認してください。
005	設定項目がサポートされていません。	対象の機器が設定項目をサポートしていません。機器を確認してください。
006	設置値がサポートされていません。	対象の機器が設定値をサポートしていません。機器を確認してください。
019	対象のアプリがインストールされていません。	正常に動いています。
020	対象のアプリがアクティベーションされていません。	正常に動いています。
023	機器にアプリがインストールされています。	正常に動いています。
027	最新のアプリが導入済みです。	正常に動いています。
050	MK-1 などによって管理されています。	対象の機器は「リコーキーカード MK1」などの管理ツールで管理されています。情報を取得できません。
056	不明なデータを取得しました。	取得した機器の状態を確認してください。
057	不明な機器を取得しました。	取得した機器の状態を確認してください。

エラーコード	原因	対処
058	再起動待ち	機器が再起動中です。しばらくお待ちください。
059	エントリーが存在しません。	アドレス帳のチェック時に機器とテンプレートのエントリーが異なっています。
060	エントリーが存在しません。	アドレス帳のチェック時に機器とテンプレートのエントリーが異なっています。
061	Type-C の拡張機能をインストールする必要があります。	引き続き、Web Image Monitor よりインストール操作を行ってください。 インストール操作が完了後、機器を再起動してください。
062	Type-C の拡張機能をアンインストールする必要があります。	引き続き、Web Image Monitor よりアンインストール操作を行ってください。 アンインストール操作が完了後、機器を再起動してください。
100	機器への認証に失敗しました。	機器アクセスアカウントの以下の設定に問題がないか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者のユーザー名、パスワード • SNMP v1/v2 プロトコルを使用のとき、コミュニティ名 • SNMP v3 プロトコルを使用のとき、ユーザー名、パスワード P.55 「アクセスアカウントを設定する」を参照してください。
101	機器への設定パラメーターが不正です。	対象の機器がサポートしていない設定値を指定しているか、設定値が正しくありません。設定値を確認してください。 バックアップファイルのときは、パスワードの内容に相違がないか確認してください。
102	機器のパスワードポリシーに違反しています。	機器のパスワードポリシーに沿ったパスワードを設定してください。
106	サポート範囲（数値）を超えています。	設定値をサポート範囲内で設定してください。
107	この操作を実行する権限がありません。	機器アクセスアカウントの以下の設定に問題がないか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者のユーザー名、パスワード • SNMP v1/v2 プロトコルを使用のとき、コミュニティ名 • SNMP v3 プロトコルを使用のとき、ユーザー名、パスワード P.55 「アクセスアカウントを設定する」を参照してください。

エラーコード	原因	対処
108	設定対象が異なります。	対象の機器が設定した機能をサポートしていません。対象の機器を確認してください。
109	機器とテンプレートで認証方式が異なります。	機器とテンプレートで認証方式が異なってないかどうか確認してください。
150	その他機器へのパラメーター不正です。	<ul style="list-style-type: none"> 設定値が正しいか確認してください。 対象の機器がサポートしていない設定値を指定しています。 対象の機器がサポートしていないタスクを実行しています。機器を確認してください。 現在機器に登録されている件数を含めて、エントリー数の上限を超過していないかどうかを確認してください。
200	機器の応答がありません。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク環境を確認してください。 機器の状態を確認してください。
201	ネットワークが切断されています。	ネットワーク環境を確認してください。
202	通信タイムアウトが発生しました。	ネットワーク環境を確認してください。
203	SSL 通信できません。	証明書が正しく設定されているか確認してください。
204	認証局に接続できません。	ネットワーク環境を確認してください。
205	機器が使用中です。	対象の機器が使用中のためタスクが実行されません。タスクを実行している間は機器の使用を控えてください。
206	機器が省エネモードです。	対象の機器の省エネモードを解除してください。
208	機器がシステムエラーです。	機器を再起動後、再度実行してください。
210	機器のセッション数が上限に達しています。	<ul style="list-style-type: none"> 時間をおいて再度実行してください。 タスクを実行している間は機器の使用を控えてください。
211	機器がシステムビジーです。	<ul style="list-style-type: none"> 時間をおいて再度実行してください。 タスクを実行している間は機器の使用を控えてください。
212	SC 発生中です。	対象の機器に問題が発生しています。機器の問題を解消してください。

エラーコード	原因	対処
214	機器の再起動に失敗しました。	アクセスアカウントが正しく設定されているか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者のユーザー名、パスワード • SNMPv1/v2 プロトコルを使用のとき、コミュニティ名 • SNMPv3 プロトコルを使用のとき、ユーザー名、パスワード P.55 「アクセスアカウントを設定する」を参照してください。
240	ユーザーコード/ログイン名が禁則されています。	ユーザーコード/ログイン名を正しく入力してください。
241	ユーザーコード/ログイン名が重複しています。	重複しないユーザーコード/ログイン名を入力してください。
242	ユーザー別カウンターの取得に失敗しました。	対象の機器のユーザー情報を確認してください。
243	ユーザー別カウンターのリセットに失敗しました。	対象の機器のユーザー情報を確認してください。
250	チェックで失敗しました。	設定中に問題が発生しました。対象機器の状態を確認してください。
260	エントリーの情報変更に失敗しました。	機器を再起動後、再度実行してください。
261	エントリーの削除に失敗しました。	機器を再起動後、再度実行してください。
266	アドレス帳のリストアに失敗しました。	機器を再起動後、再度実行してください。
280	その他機器エラーが発生しています。	<ul style="list-style-type: none"> • 機器の設定を確認してください。 • 対象の機器に問題がないか確認してください。 • 機器のパスワードポリシーに違反したパスワードを設定していないかを確認してください。 • アドレス帳設定で、削除対象、または認証情報の更新対象のユーザーが操作部からログインしていないかを確認してください。 上記に該当しないときは、機器を再起動後、再度実行してください。
304	プロキシの認証に失敗しました。	プロキシサーバーのユーザー認証を有効にしているとき、正しく設定されているか確認してください。 P.63 「システムの設定一覧」を参照してください。

エラーコード	原因	対処
305	プロキシの接続に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク環境を確認してください。 システム設定でプロキシサーバーが正しく設定されているか確認してください。P.63「システムの設定一覧」を参照してください。
307	RICOH Software Server との通信ができません。	ネットワーク環境を確認してください。
308	RICOH Software Server との通信ができません。	ネットワーク環境を確認してください。
310	データ送信に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> サーバーやネットワークに問題がないか確認してください。 システム設定でプロキシサーバーが正しく設定されているか確認してください。P.63「システムの設定一覧」を参照してください。
311	データ受信に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> サーバーやネットワークに問題がないか確認してください。 システム設定でプロキシサーバーが正しく設定されているか確認してください。P.63「システムの設定一覧」を参照してください。
350	その他外部システム接続エラーです。	<ul style="list-style-type: none"> サーバーやネットワークに問題がないか確認してください。 システム設定でプロキシサーバーが正しく設定されているか確認してください。P.63「システムの設定一覧」を参照してください。
400	入力パラメーターが不正です。	正しいパラメーターを設定してください。
401	ファイルフォーマットが不正です。	ファイルフォーマットに問題がないか確認してください。
402	ファイルバージョンが不正です。	ファイルバージョンに問題がないか確認してください。
403	ファイルの文字コードが不正です。	正しい文字コードを設定してください。
404	ユーザー操作により中断しました。	システムの作業が完了していません。再度実行してください。
450	その他システムへの入力エラーです。	設定した設定値、パラメーターに問題がないか確認してください。
500	データベースの認証に失敗しました。	認証設定に問題がないか確認してください。

エラーコード	原因	対処
501	データベースへのアクセスに失敗しました。	サーバー設定に問題がないか確認してください。
502	データベースへのデータ保存に失敗しました。	ハードディスクの空き容量が不足しているかもしれません。不要なログ/データを削除して、空き容量を確保してください。
503	データ読み出しに失敗しました。	ハードディスクの空き容量が不足しているかもしれません。不要なログ/データを削除して、空き容量を確保してください。
504	データ保存に失敗しました。	ハードディスクの空き容量が不足しているかもしれません。不要なログ/データを削除して、空き容量を確保してください。
550	その他データ入出力エラーです。	ハードディスクの空き容量が不足しているかもしれません。不要なログ/データを削除して、空き容量を確保してください。
600	ディスク容量が不足しています。	不要なログ/データを削除して、ハードディスクの空き容量を確保してください。
601	システム停止により中断しました。	システムが停止、または終了しました。システムを再起動してください。
602	システムのメモリ不足です。	<ul style="list-style-type: none"> ハードディスクの容量が不足しているかもしれません。不要なログ/データを削除して、空き容量を確保してください。 コンピューターを再起動してください。
603	セッション数が上限に達しています。	サービス実施店に連絡してください。
604	プロダクトキーが不正です。	正しいプロダクトキーを入力してください。
605	テンプレートが保存されました。実行に必要なライセンス数が確保されていることを確認してください。	<ul style="list-style-type: none"> ライセンスを追加購入してください。 ほかの機器にインストールされているソフトウェアをディアクティベーションしてください。
606	アプリが導入不可の機器です。	<ul style="list-style-type: none"> ほかの機器にインストールしてください。 対象の機器の状態を確認してください。
611	機器のロックに失敗しました。	対象の機器が使用中です。対象の機器の状態を確認してください。
612	機器の再起動に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> 設定する時は機器を使用しないでください。 アクセスアカウントが正しく設定されているか確認してください。
619	アドレス帳 CSV ファイルが不正です。	ファイルが正しいか確認してください。

エラーコード	原因	対処
620	機器設定バックアップファイルが不正です。	ファイルが正しいか確認してください。
621	暗号化キーが不正です。	暗号化キーが正しいことを確認してください。
622	取得できない項目です。	取得できない項目を指定しています。パスワードなどの機密情報は取得できません。
631	タスクの情報が不正なため、タスクの初期化に失敗しました。	タスクの設定に問題がないか確認してください。
632	対象機器がないため、タスクの初期化に失敗しました。	対象の機器の状態を確認してください。
634	前の設定項目で失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> 対象の機器の状態を確認してください。 タスクの設定に問題がないか確認してください。
640	新規発見機器が1台以上あります。	正常に動いています。
641	新規発見機器はありませんでした。	正常に動いています。
642	失敗した機器はありませんでした。	正常に動いています。
643	実行された機器はありませんでした。	正常に動いています。
650	その他システムエラーです。	<ul style="list-style-type: none"> システムの設定に問題がないか確認してください。 ハードディスクの空き容量が不足しているかもしれません。不要なログ/データを削除して、空き容量を確保してください。
660	データ読み出しに失敗しました。	<p>機器アクセスアカウントの以下の設定に問題がないか確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理者のユーザー名、パスワード SNMP v1/v2 プロトコルを使用のとき、コミュニティ名 SNMP v3 プロトコルを使用のとき、ユーザー名、パスワード
670	未実行タスクがあります。システム停止により実行されませんでした。	正常に動いています。
700	データの追加に失敗しました。	サービス実施店に連絡してください。
701	データの更新に失敗しました。	サービス実施店に連絡してください。

エラーコード	原因	対処
702	データの削除に失敗しました。	サービス実施店に連絡してください。
703	データの取得に失敗しました。	サービス実施店に連絡してください。
704	サーバー内にエラーが発生しています。	サービス実施店に連絡してください。
705	タスクの削除が未完了です。	サービス実施店に連絡してください。
706	タスクの更新が未完了です。	サービス実施店に連絡してください。
707	タスク実行中に実行したため実行が失敗しました。	時間をおいて実行し直してください。それでもエラーが発生するときは、サービス実施店に連絡してください。
708	DM サーバーとの接続に失敗しました。	サービス実施店に連絡してください。
709	マップ画像が上限容量を超えています。	サービス実施店に連絡してください。
710	DM サーバーは処理中のため移動できません。	サービス実施店に連絡してください。
750	予期せぬエラーが発生しました。	サービス実施店に連絡してください。
801	RS センターシステムが営業時間外のため受付できません。	営業時間を確認してください。
802	機器情報の取得に失敗しました。	機器を確認してください。
803	メッセージ送信に失敗しました。	機器を確認してください。
804	ハードウェアに関連するエラーが発生しています。	サービス実施店に連絡してください。
805	データベースに関連するエラーが発生しています。	サービス実施店に連絡してください。
806	RS センターシステムでエラーコードに分類されないエラーが発生しました。	サービス実施店に連絡してください。
807	本機でエラーコードに分類されないエラーが発生しました。	サービス実施店に連絡してください。
809	RS センターシステム側で本機が検知できません。	サービス実施店に連絡してください。

エラーコード	原因	対処
810	本機上で登録した管理機器がRSセンターシステムで見つかりません。	サービス実施店に連絡してください。
813	リストア、システムファームウェア更新、機器ファームウェア更新が実行中です。	機器ファームウェア更新が実行中のときはシステムファームウェア更新要求を受けても更新されません。
814	機器を登録できません。	既に使用中の RC Gate ID か登録済みの機器です。別の ID を使用するか別の機器を登録してください。
816	対象機器は既にセンターに登録済みです。	既に登録済みの機器です。別の機器を登録してください。
817	データが上限を超えています。	設定を確認してください。
818	パラメーターがエラー中です。	項目が不足しているか、不正な値が設定されています。正しいパラメーターで設定してください。
823	機器ファームウェア更新、本機ファームウェア更新時に、ダウンロード予定のファームウェアサイズが大きすぎます。	本機の容量が足りないためファームウェア更新は行わないでください。サービス実施店に連絡してください。
824	機器ファームウェアのスケジュールが期限切れです。	サービス実施店に連絡してください。
825	メール設定にエラーが発生しています。	メール設定が正しく設定されていません。[メールサーバー設定] で正しく入力してください。
827	機器ファームウェア更新結果の通知をキャンセルしました。	カスタマーエンジニアによって、機器ファームウェア更新結果の通知がキャンセルされました。
828	対象機器に接続できません。	機器を確認してください。
829	FTP へのログインが認証されませんでした。	サービス実施店に連絡してください。
830	FTP に接続できませんでした。	サービス実施店に連絡してください。
831	サーバーからの応答がありません。	サービス実施店に連絡してください。
834	処理が中止されました。	処理が中止されました。
835	タイムアウトが発生しました。	もう一度ログインしてください。

エラーコード	原因	対処
836	タイムアウトしました。	もう一度ログインしてください。
841	RC ゲート ID が間違っています。	サービス実施店に連絡してください。
842	この通知とインストール計画情報のデバイス ID が一致しません。	正しい機番を入力してください。
843	RC ゲート ID のフォーマットが不正です。	サービス実施店に連絡してください。
844	不正なお申し込み受付番号を受信しました。	サービス実施店に連絡してください。
848	接続テストに失敗しました。	接続状況を確認してください。
849	サービス側からの交換はサポートされていません。	サービス実施店に連絡してください。
850	国が不正です。	選択されている国が不正です。使用する国を選択してください。
852	該当するデータがありません。	サービス実施店に連絡してください。
853	CSS 機が管理機器として検出されました。	サービス実施店に連絡してください。
899	分類できないエラーです。	サービス実施店に連絡してください。
951	ネットワーク接続にエラーが発生しました。	プロキシサーバーの設定が正しくない、またはネットワーク環境に何らかの不備があります。確認してください。
954	操作の禁止機能です。	対象の機能の許可設定が「許可しない」に設定されています。確認してください。
955	xml のパースエラーです。	サービス実施店に連絡してください。
1001	システム状態が異常です。	サービス実施店に連絡してください。
9801	Http の接続エラーです。	サービス実施店に連絡してください。

本体仕様

項目	内容	
形式	ボックスタイプ	
インターフェース	Ethernet インターフェース×1 (10BASE-T または 100BASE-TX または 1000BASE-T)	
オプション	RICOH Remote Communication Gate A2 Storage 1000	
表示部	LED	4 個 (青：電源、赤：アラート、 黄 2 個：ステータス)
主なサービス機能	カウンター自動検針 遠隔診断保守 (リモート点検/SC、CC、AC、MC 通報とコール時 対応) 使用枚数等情報提供 (ご使用状況報告) トナーエンド情報提供 ファームウェアのリモート更新	
対応プロトコル	HTTP、HTTPS、SNMP v1/v2/v3、FTP、SMTP	
管理対象機器	当サービス対応のデジタル複合機、コピー機、プリンター	
最大接続台数	<ul style="list-style-type: none"> RS センターシステムに登録した管理対象機器 100 台 (オプションでストレージ拡張時は 1,000 台) オートディスカバリー 1,000 台 (RS センターシステムに登録したネットワークの 機器も含む) 	
使用環境	動作周囲温度範囲：10～32°C、15～80%RH 保存周囲温度範囲：-10～50°C、15～90%RH	
電源	100V、50/60Hz、3.6A 以上	
消費電力	10W	
大きさ	幅:155mm×奥行:120mm×高さ:32mm	
重量	300g	

電波障害に関する注意事項

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

- テレビやラジオなどからできるだけ離す。
- テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
- コンセントを別にする。

↓ 補足

- この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

リサイクル部品について

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。

本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

本機に搭載されているソフトウェアの著作権などに関する情報

本機に搭載されているソフトウェアは、以下を含みます。

- WPASupplicant
- OpenSSL
- busybox
- glibc
- ethtool
- gdb
- linux
- LTIB
- u-boot
- udev
- wide-dhcpv6
- libstdc++
- Antlr
- Apache Axiom
- Apache Axis
- Apache Axis2 OSGi Integration
- Apache Commons Beanutils
- Apache Commons CLI
- Apache Commons Codec
- Apache Commons Collections
- Apache Commons Compress
- Apache Commons CSV
- Apache Commons DBCP
- Apache Commons Digester
- Apache Commons Discovery
- Apache Commons EL
- Apache Commons File Upload
- Apache Commons IO
- Apache Commons Jxpath

- Apache Commons Lang
- Apache Commons Logging
- Apache Commons Logging API
- Apache Commons Net
- Apache Commons Pool
- Apache Commons Validator
- Apache Derby
- Apache Felix Gogo
- Apache Geronimo crypto
- Apache Http Core
- Apache Http Core OSGi bundle
- Apache HttpComponents httpclient
- Apache Jasper
- Apache Log4j
- Apache Lucene
- Apache Mime4j
- Apache Poi
- Apache ServiceMix :: Bundles :: Jaxen
- Apache Velocity
- Apache Xerces
- Apache Xml Commons
- Apache XML Commons Resolver
- Apache Xml Resolver
- Apache XMLBeans
- ASM
- asm-attrs
- Axis2
- Bouncy Castle
- c3p0
- cglib
- cglib-nodep
- Codehaus Jackson
- Dom4j
- Dumbster

- ehcache
- Equinox
- Fast Infoset
- Ftp4j
- Glassfish
- Google guice
- Google Web Toolkit
- Guava
- gwt-crypto
- Hibernate
- hibernate-jpa-2.0-api
- hibernate-jpamodelgen
- HyperSQL
- iBATIS
- Jakarta Oro
- Java EL
- Java Mail
- Java Message Service
- Java Native Access
- Java Persistence API
- Java Servlet
- Java Servlet JSP
- Java Validation API
- JavaBeans Activation Framework
- Javassist
- jaxb-api
- jaxb-impl
- jaxrs-api
- Jboss Cache
- jboss-common-core
- jboss-el
- jboss-logging-spi
- jboss-transaction-api
- jcifs_krb5

- Jcip Annotation
- JCL 1.1.1 implemented over SLF4J
- jdbc2_0-stdext
- Jetty
- Jgroups
- JNA
- jni4net
- Jsch
- Jsch OSGi bundle
- Jsr250-API
- JTA
- Jtidy
- juniversalchardet
- Jyaml
- ksoap2
- kXML2
- kXML2 OSGi bundle
- MyBatis
- Oauth
- oauth-provider
- Org. Jettison JETTISON
- OSCache
- Quartz
- RestEasy
- scannotation
- Slf4j
- Snmp4j
- Snmp4j OSGi bundle
- Spring Dynamic Modules
- Spring Framework
- spring-osgi-annotation
- spring-osgi-core
- spring-osgi-extender
- spring-osgi-io

- spring-osgi-mock
- Stax API
- Sun Java Streaming XML Parser
- Super CSV
- Web Services Metadata 2.0
- woden-api
- woden-impl-commons
- woden-impl-dom
- Wsdl4j
- Wstx Asl
- xml-commons
- XmlPull
- XmlSchema

これらのソフトウェアのライセンス・著作権等に関する情報は、ブラウザ上に以下の URL を直接入力すると表示されます。

<http://{LAN ポートの IP アドレス}:8080/licenses/index.html>

商標

- Adobe、Acrobat、Acrobat Reader は Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
- Firefox は Mozilla Foundation の商標です。
- Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。本書の説明および所有者の権利のために使用されます。この使用によって所有者の権利を侵害するものではありません。

この製品には、OpenSSL Toolkit で使用するために OpenSSL Project によって開発されたソフトウェアが含まれています。(http://www.openssl.org/)

- Windows 7 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows® 7 Starter

Microsoft® Windows® 7 Home Premium

Microsoft® Windows® 7 Professional

Microsoft® Windows® 7 Ultimate

Microsoft® Windows® 7 Enterprise

- Windows 8.1 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft® Windows® 8.1

Microsoft® Windows® 8.1 Pro

Microsoft® Windows® 8.1 Enterprise

- Internet Explorer の正式名称は次のとおりです。

Windows® Internet Explorer® 8

Windows® Internet Explorer® 9

Internet Explorer® 10

Internet Explorer® 11

索引

記号・数字

@Remote システムへの接続..... 81

アルファベット

CSV ファイル..... 30, 32

CSV ファイルに書き出す..... 31

CSV ファイルを取り込む..... 30

IEEE 802.1X 認証..... 66

IP アドレス..... 37

LAN ポート..... 15

LAN ポートの LED..... 15

LED

アラート (赤)..... 14

ステータス 1 (黄)..... 14

ステータス 2 (黄)..... 14

電源 (青)..... 14

LED 表示..... 95

RC Gate モニター..... 17

起動する..... 18

終了する..... 19

ユーザー..... 17

SNMP..... 48, 49, 50, 53, 55

SSL..... 89

USB2.0 インターフェース..... 15

あ

アクセスアカウント設定..... 46, 52, 55

アクセスプロファイル..... 57

アクティベーション..... 68, 79

インポート..... 30

エクスポート..... 30

エラーコード..... 99

エラーメッセージ..... 96

オートディスカバリー..... 33, 34, 86

オプションプロパティ..... 44

オプション..... 16

か

カウンター..... 43

画面の見かた..... 25

管理者..... 17

機器 FW 更新禁止期間シフト設定..... 36, 91

機器の追加..... 47

機器のプロパティ..... 38

機器ファームウェア更新..... 90

機器ファームウェアを更新する..... 94

機器を検索する..... 58

機器を登録する..... 60

許可設定..... 84

グループ..... 61

コール/カウンターの履歴保存..... 92

こんなときには..... 95

さ

時刻設定..... 63

システム概要..... 12

システムログ..... 74

シャットダウン..... 25, 27

集約..... 89

仕様..... 109

詳細エリア..... 25

詳細状態..... 40

使用説明書..... 4

商標..... 116

シリアル番号..... 86

スケジュールタスク..... 77

ストレージ..... 16

セキュリティーログ..... 35, 75

セクションエリア..... 25

前面..... 14

ソート..... 29

た

タブエリア..... 25

著作権情報..... 111

ディアクティベーション..... 68, 79

ディスカバリー..... 58

ディスカバリー範囲..... 33, 34, 48, 49, 50

ディスカバリー&ポーリング..... 47

電源コネクタ..... 15

電源ボタン..... 14

電源を切る..... 14

導入時の設定..... 21

登録済み機器再検索..... 50

な

ネットワーク設定..... 64, 70

年月日設定..... 63

は

背面.....	15
パスワードを変更する.....	25, 26
表示アイコン.....	27
プロキシサーバー.....	70
プロパティ.....	38
ヘッダーエリア.....	25
返却.....	99
ホスト名.....	37

ま

メインプロパティ.....	38
モデル.....	37

ら

リストエリア.....	25
ログ.....	74
ログアウト.....	19, 25
ログイン.....	18

MEMO

MEMO

